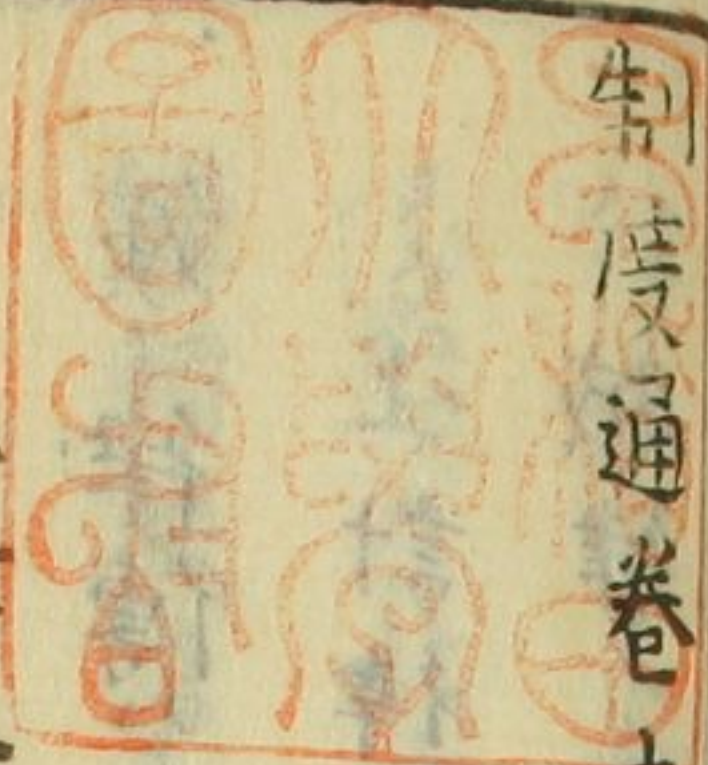


制度通

十二十三

74
6338
8





伊藤長胤 輯

▲律令格式ノ事

○古ヨリ天下國家ヲ治ルニ法アラズト云コトナシ書ノ洪範
九疇ハ夏商ノ世天下ヲ治ルニ大法ヲアラハセリ箕子之ヲ
武王ハ傳ヘタラフ周官ニ百六十八周ノ禮典ヲ記セリソノ後
世々ノ律令格式モ時ニ隨テ増減アリテ詳ニ當時ノ法度ヲ
述タルモノナリ

74
6338
8

○律ト云ハ本戰國ノ時魏ノ李悝ヨリオレ其時ハ法經ト云テ
夕、六篇アリ商鞅之ヲ改シテ律トスソノ後段々損益沿革
アリ唐六典ノ注ニ李悝集諸國刑書造法經六篇一
盜法二賊法三囚法四捕法五雜法六具法商鞅
傳之改法為律ト○呂氏曰具律令之名例律也ト玉
海ニコレヲヒク

漢ノ律傳ハラズ諸書ニ殘リテアル玉海ニ之ヲ引ク

- 上計律
- 大樂律
- 尉律
- 田律
- 酹金律
- 賊律
- 收幣律
- 相坐律
- 挾書律
- 誹謗律

律ノ外ニ又令ト云書アリ漢已來南北朝ノ比ヨリ世々ニシテ
ノ名アリ北齊ノ河清新令ナドノ書ニレシ音刑法志ニ云
漢時決事集為令甲以下三百餘篇トアリ漢ノ時ノ
令傳ハラズ篇目諸書ノ内ニ偶殘リテアリ玉海ニ之ヲ紫

- 令甲
- 令丙
- 令乙
- 乙令
- 金布令
- 功令
- 秩祿令
- 宮衛令
- 品令
- 祀令
- 祠令
- 齋令
- 公令
- 功令
- 廷尉挈令
- 光祿挈令
- 樂浪挈令
- 廷尉板令
- 田令
- 水令

刑
法
通
考
卷
之
八
律
令

○文獻通考云律文十二卷音義一卷陳氏曰自魏李
 悞漢蕭何以來更三國六朝隋唐因革損益滿矣
 本朝天聖中孫奭等撰音義ト云々是直唐律ノ事
 見ヘタリ唐ノ時漢已來ノ法ヲ損益シテ唐ノ律ヲ定メラ
 レ宋朝ニモ是ヲ用ユニヨリテ故ニタ、律文ト擧ケタルト見ヘタリ
 即今ノ唐律疏議ナリ然レトモ疏議褚遂良等カ作ナレトモ
 ツノ事通考ニ見ヘズオモフニ當時馬氏陳氏ナドタ、律ノ本
 小注バカリノ本ヲミテ疏議ヲ見ガルトミヘタリ

○唐律十二卷目錄

凡五百條 計三十卷

一名例	計六卷	二衛禁	計二卷
三職制	計三卷	四戶婚	計三卷
五廩庫	計一卷	六擅興	計一卷
七賊盜	計四卷	八鬪訟	計四卷
九詐偽	計一卷	十雜律	計二卷
十一捕亡	計一卷	十二斷獄	計二卷

右唐律ノ目錄カクノコトニ宋元ニ至リテモノノ條目カハルコトナシ
 擅興ト云ハ軍兵ヲウゴカスノ法ナリ律ノ第一條ニ云擅興兵
 十人以上徒一年トヤリ是ニテツノ義シルベシ漢ノ時蕭何是

ヲ興律ト云曹魏ノ時ニ擅事ヲ附シ入テ名ツケテ擅興律ト云北齊ノ時ニ興擅律ト云隋已來改メテ又擅興律ト云ナリ明ノ律ニコロ篇目見ヘズ軍政律ト云即コノコトナリ

○唐ノ玄宗開元中ニ宋璟等制定シテ令三十卷千五百四十六條アリ世ニ所謂唐令是ナリ曾南豐コレヲ序

○唐令三十卷目錄 見三典ノ九令二十有七分爲三十三卷而大凡一千五百

- 一官品 方爲上下 二三師三公臺省職負 三寺
- 監職負 四衛府職負 五東宮王府職負

六州縣鎮戍岳瀆開津職負 七内外命婦職

負 八祠 九戸 十選舉 十一考課 十

二宮衛 十三軍防 十四衣服 十五儀制

十六鹵簿 方爲上下 十七公式 方爲上下 十八田

十九賦役 二十倉庫 二十一廐牧 二十

二開市 二十三醫疾 二十四獄官 二十

五宮繕 二十六喪葬 二十七雜令

○又式二十卷アリ格七百條アリ是ヲ合セテ律令格式ト云テ唐ノ太宗ノ時ニ是ヲ定メルソノ後武后ノ時ニ垂拱格

リ玄宗ノ時ニ開元格アリ文宗ノ時ニ大和格アリ何レモノ
時ノ年號ニヨリテ名ツケタルモノナリ

○大學衍義補云唐之刑書有四曰律令格式令者
尊卑貴賤之等數國家之制度也格者百官有司
之所常行之事也式者其所常守之法也凡邦國
之政必從事於此三者其有所違及人之為惡而
入于罪戾者一斷以律律之為書因隋之舊為十
有二篇

○又曰玄齡等典法司增損隋律降大辟為流者九
十二流為徒者七十一以為律定令一千五百四
十六條以為令又刪武德以來勅三千餘條為七
百條以為格又取尚書省列曹及諸寺監十六衛
計帳以為式

○律令格式ト后ニヤウナルコトヲ云ツタテラレタルワケハ令ト云ハ
天下へ一通リノ掟ニテ萬事ノ上ニ就テカクノゴトクセヨカリノコ
トノスルコトナカント辨令ヲ定メオキタルモノナリ律ト云ハ天下
ノ人罪アルトキカクノゴトキ罪ハ流罪ニ處シカクノゴトキトキハ徒
罪ニスルト云フ差テアラハシクモナリ杜預律序曰律以正

罪名令以存事制杜氏通典云違令有罪則入律也ト是ナリ格ト云ハ代々天子ノ命令或ハ律令ト少シカハリシルコトモアリ又律令ヲ丁、寧ニセラルコトモアリテ臨時御
 フナリ大明律ノ内ニ條例トアル類ナリ 本朝ノ三代格
 等ノ體ヲミルニ中國ノ格モソノ通りナルニ式ハ百官ノ官府
 ニテオコナフ次第作法官ニヨリテ類シタルモノナリ今ノ延喜
 式ノ體即是ナリ

本朝之制有律令格式

本朝法令ノ書モハラ唐ノ刑書ノ目ニヨリテ律令格式四

科アリソノワケ唐ノ制ト同シ

○律十卷 贈太政大臣藤原不比等奉 勅撰

名例第一 律禁第二 職制第三

戸婚第四 厩庫第五 擅興第六

賊盜第七 鬪訟第八 詐偽第九

雜律第十 捕亡第十一 斷獄第十二

○令十卷 贈太政大臣藤原不比等奉 勅撰

官位 職負 後宮職負 東宮職負 家令

職負 神祇 僧尼 戸 田 賦役 學

刑
律
令
格
式

卷
十
二

六

選叙 繼嗣 考課 祿 官衛 軍防 儀
制 衣服 宮繕 公式 倉庫 廩牧 醫
存 假寧 喪葬 開市 捕亡 獄 雜

○三代格

弘仁格十卷 大納言藤原冬嗣等奉勅撰

貞觀格十二卷 大納言藤原氏宗等奉勅撰

延喜格十二卷 左大臣藤原忠平等奉勅撰

卷第一 神祇 卷第二 式部 卷第三 式部

卷第四 治部 卷第五 治部 卷第六 民部

卷第七 民部 卷第八 兵部 卷第九 刑部 大藏 京職 彈正

卷第十 雜格 臨時格卷上 臨時格卷下

右三代格ヲ部類シテ類聚三代格ト云又法曹至
要鈔三卷長春作ト云律令格式ノ要領ヲ舉ク至
ノ大槩ヲ三ルヘシ

○三代式

弘仁式三十卷 大納言藤原冬嗣等奉勅撰

貞觀式二十卷 左大臣藤原氏宗等奉勅撰

延喜式五十卷 左大臣藤原忠平等奉勅撰

刑部通

卷十二

十一

卷第一 神祇四時祭上二神祇二祭下三神祇三祭四
 神祇四伊五神祇五六神祇六七神祇七
 勢太神宮齋宮六齋院六七神祇大嘗會
 八神祇八神祇九神祇十神祇十一官太政
 祝詞八九神祇十神祇十一官太政
 二物主鈴典監十三人中宮大舍十四殿縫十五
 藏十六陽十七匠十八式部十九式部二十學
 廿一治部雅樂廿二民部廿三民部廿四計
 上廿五下計廿六上稅廿七下稅廿八兵部
 廿九刑部判三十大藏部廿一宮部廿二太膳
 三下膳廿四木部廿五炊部廿六主殿部廿七典部廿八

掃部九証膳親四十造酒采四十一正四十二
 左右京四十三春宮四十四勘解四十五左右
 東西市四十三宮四十四勘解四十五左右
 四十六衛門四十七左右兵衛四十八左右
 九庫五十雜式○延長五年二月二十六日

○五代ノ時梁ノ太祖開平四年ニ新ニ律令格式ヲ冊定セリ
 レ大梁新定格式律令ト云テ百三卷アリ周ノ世宗ノ顯德
 四年ニ大周刑統二十一卷ヲ修セラレ律疏令式ト同シク天下
 ニ通行ス宋ノ太祖建隆四年ニ實儀刑統三十卷ヲ重
 定ス令式宣勅等ヲ增刪シテ新編勅ト名ヅク刑統ト並ニ

刊行セラレ其後太宗仁宗ノ世時々増損アリ

○洪容齋隨筆ニ云法令之書其別有四勅令格式是也神宗聖訓曰禁於未然之謂勅禁於已然之謂令設於此以待彼之至謂之格設於此使彼效之謂之式勅令格式ノワケ是ニテワノ差別ニレハレドモニギラハレキヤウニキユ委細ハ上ニ禁文獻通考等ノ説ニテキクアリ

○神宗ノ時律バカリニテハ盡キサルヨリテ律ノ載セサル事ヲ勅ヲ以テサズソノ目ヲアラタメテ勅令格式ト云勅ハ各例ヨリ以下斷獄ニテ十二門アリ令ハ品官ヨリ斷獄ニテ二十五門ア

リ命官等級高下アルモノヲ格トス表奏帳籍等ノ類體制模楷アルモノヲ式ト云其後高宗ノ紹興中ニ勅十三卷令五十卷格三十卷式三十卷アリ又寧宗ノ慶元中ニモ又勅十二卷令五十卷格三十卷式二十卷ヲ修セラレ然レトモ律ソノ用ヒラルコトナリ大興子衍義補ニ云律恒存乎勅之外又丘文莊云所謂勅者兼唐之律也ト是ナリシカレハ宋ノ時ニ律令格式ニ勅ヲ合セテ五ツアリ故ニ是ヲ居家必用ニ五科ト云

宋勅

律令五科圖
律 式 格 令

○明太祖時洪武元年大明令百單五條ヲ作リテ天下ニ頒チ
行フ年ニ及テ刑部尚書劉惟謙等ニ命ニテ律文ヲ作ラシメ
大明律是ナリハジニ名例律アリ次ニ六部ニカテ凡三十卷四百
六十條アリコノ外ニ洪武禮制諸司職掌並ニ大誥三篇大誥
武臣等ノ書アリテ唐宋ノ律令格式並ニ編勅等皆コノ中ニ在リ

○大明律目錄 條計三百六十一

名例律 四十一條

吏律 職制 十五條

戶律 戶役 十五條

婚姻 十八條

課程 十九條

市廛 五條

祭祀 六條

宮衛 十九條

公式 十八條

田宅 十一條

倉庫 二十四條

錢債 三條

儀制 二十條

軍政 二十條

刑 禮 兵 宮 軍 刑 禮 兵 宮 軍

人ツ付テ是ヲ積ミ上ゲテ百乘千乘ノ國ト云ナリ

○又周ノ司馬法ニ五人為伍二十五人為兩四兩為卒々
八百人ナリ五卒為旅々五百人ナリ五旅為師々二千五
百人ナリ五師為軍々一萬二千五百人ナリコレヲ一軍ト
スツノ時天子ハ六軍ニテ七萬五千人ナリ大國ハ三軍中
國ハ二軍小國ハ一軍ト云大國ハ三萬七千五百人中國ハ
二萬五千人ナリ

周 六軍 天子 七萬五千人 内ニ寓シテ万人代ス
三軍 大國 三萬七千五百人

制 二軍 中國 二萬五千人
一軍 小國 一萬二千五百人

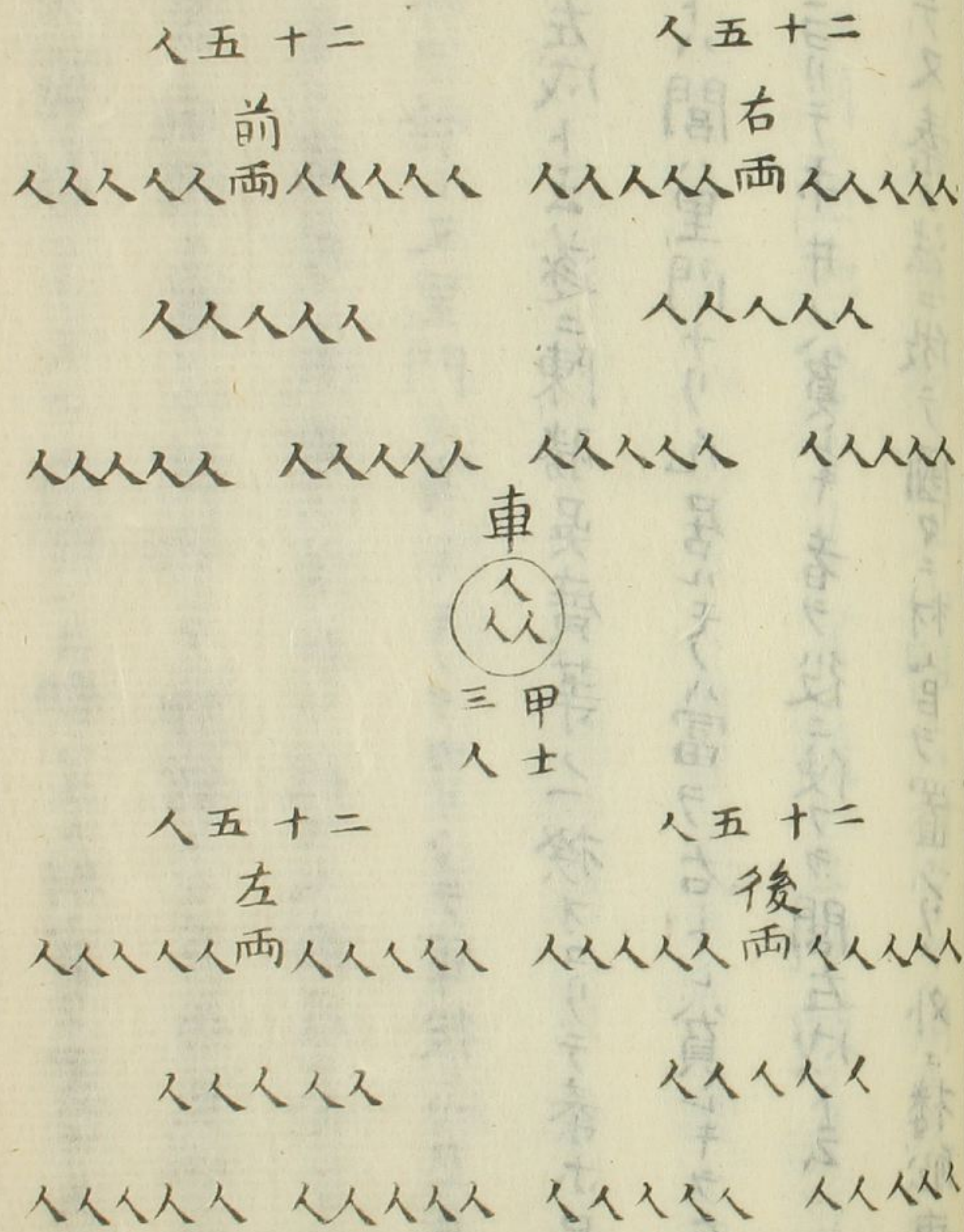
軍法ニ乘ト云ト軍ト云ト人数ノツモリ甚不同ア
リ天子ヲ萬乘トイハル人数百萬人ナリ千乘ハ十
萬人百乘ハ一萬人ナリ又軍旅ノ積リニテイハ
天子ハ六軍ニテ七萬五千人ナレハ萬乘ノ人数十
分ノ一ニモオヨバズレカレトモ三軍六師千乘萬乘ノ
コト論孟左氏等ノ古經ニ多ク見ハルツノカニツノ制ニ
ツナガラアルコトアキラカナリレカレハ千乘萬乘ハ土地

制度通 卷十二

總體ノツモリニテ六軍三軍ハ出陣ノ時ノワリト見ヘタリ

○孟子ニ萬乘之國云々舊說相承テ天子ノ事ト注アリ然レトモ是ハ當時強大ノ諸侯ヲサニテ萬乘國ト云テカナラズ天子ヲ言フニアラス孟子ニ齊ノ燕ヲ伐ヲ稱シテ曰以萬乘之國伐萬乘之國ト又史記魯仲連傳云今秦萬乘之國也梁亦萬乘之國也ト云ニテ三六ニ向レモ兼并ノ時分直チニ當時ノ事ヲ稱シテ古今成法ヲ言フニアラズトス

周禮百人為卒圖



○ツノ後春秋戰國ノ間ノ兵制世々ニ異同アリテツノ事左傳國

制禮通

卷十二

十三

策等ニ散見ス委細ヲアグルニオヨク秦ノ始皇天下ヲ一統シテ諸侯ヲ罷シ分ツテ三十六郡トス郡コトニ材官ヲ置キ天下ノ武具ヲ咸陽ニ聚シテ鑄ルニ鍾鐻トス其後長城ヲ築キ阿房ヲ建ル等ニ數萬ノ軍兵ヲ役ス人数足ラズニテ謫戍ノ卒ヲ發シ又里門ノ貧シキモノヲカリタテ軍役ニカフ是ヲ間左戍ト云遂ニ陳勝吳廣等ノ一揆オコリテ秦ホロブ間左トハ間八里門ナリ凡居ルモノハ富ヲ右トシ貧シキヲ左トス是ニヨリテ市井ノ貧シキ者ヲ役ニ使フヲ間左戍ト云

漢興テ又秦ノ法ニ倣テ國々ニ材官ヲ置クノ外ニ樓船車

騎アリ平地ニハ車騎ヲ用ユ山阻ニハ材官ヲ用ユ水泉ニ樓船ヲ用ユ土地ノ勢ニヨリテ宜ニ隨テ是ヲ設ク是皆外ニ在ク軍兵ナリ京師ノ守リニハ南軍北軍ト云武士ニ組アリ南軍ハ衛尉是ヲ主トリ宮城門内ノ兵ヲ掌ル北軍ハ中尉是ヲ主トリ京城門内ノ兵ヲ掌リ京師ヲ巡徼ス武帝ノ世ニ及テ羽林期門等ノ兵ヲ置キ宿衛官トシテ南軍ニ屬ス又中尉ヲ改メテ執金吾トシテ中壘屯騎等ノ八校尉ヲ置キテ北軍ニ屬ス是ヨリ兵籍紛々南北軍ノ制ヤブルソノ軍士六六郡國ヨリ更番ニ調發ス大抵西

漢ニ通シテ軍兵ノ負數四萬人ニ過キズト見ヘタリ

漢書ニ刑法志アリテ別ニ兵志ナシレカニヨリテ漢ノ世ノ兵

制タシカニシレガタシ文獻通考ニ易氏章氏ノ説ニヨリテ漢

書ノ紀表列傳等ヲ参考シテ圖説ヲアラハスソノ大畧ヲ上

ニアゲ

○後漢ノ世光武中興ニ及テ少々兵ヲ設ケ京師ニ南北軍ノ

制モトゴトシ然レトモ郡國ノ都尉ヲ罷メ都試ノ法ナク車騎

材官ヲ罷メテ民伍ニカヘスコヨリ兵制蕩然トシテ武備才

ト只リホニ到リテ義兵四モ起リ郡牧政ヲ争フテ天下遂ニ三分

○魏ノ制ハ畧後漢ノゴトク南北軍アリ蜀ニ先主ノ時ニ五

軍ヲ置ケリ吳ニ六舟師多シ調度亦法ナシ晉ノ時左右

軍ニカチテ吳ヲ伐ツ又四部四軍七軍等ノ名アリ又同姓ヲ

封シテ大國三軍次國二軍等ノ制アリ太康元年吳ヲ平

ゲテ後ゴトク州郡ノ兵ヲ罷メラル僕射山濤上書シテ諫

一トモ用ヒラズソノ後永寧以後盜賊群起シテ州郡備ナク

コレヲ制スルコトアタハズ天下遂ニ大ニ亂レ山濤カコトレルリアリトイヘ

○南北朝ノ間喪亂ノ中ソノ制詳ニアグルニオヨハス北魏ノ孝文帝

都ヲ洛陽ニ定メ武勇ノ士十五萬人ヲ選シテ羽林虎賁トシテ

宿衛ニソナフ北齊ノ時軍制ヲ内外ニ分ケ外ヲ歩兵曹トシ
 内ヲ騎兵曹トシ天下ノ民年二十ニテ兵トナリ六十ニテユルサ
 コフル古法ヲ追フ周ノ太祖西魏ヲ輔ル時獲綽カ言ヲ用ヒ姬
 周ノ法ニチラフテ六軍ヲ置ク人数五萬人ノ内アリ是ヲ百府
 ニ分チテ一府ニ郎將一人之ヲ主トル二十四軍ニ属シテ軍開
 府一人アリソノヒリヲ柱國六人大將軍十二人ニテ是ヲ統
 隋ノ法モ周齊ニヨリテ潤色ス

○唐ノ兵制ハ周齊隋ノ法ニヨリテ府兵ト云高祖武徳ノ初
 年ニ初メテ軍府ヲ置キ關中ヲ析^析テ十二道トス又改メテ軍
 ト云テ各將軍副將軍一人ツアリ

○太宗ノ貞觀十年ニ諸府ヲ改メ名ツケテ總テ折衝府
 ト云毎府ニ折衝都尉一人左右果毅都尉各一人
 別將一人長史一人兵曹一人校尉六人ツアリテ是ヲ
 掌ル府ニ上中下ヲハカツテ軍兵千二百人ヲ統ルヲ上
 府トシ千人ヲ統ルヲ中府トシ八百人ヲ統ルヲ下府トス又
 都子カクニ在ル府ヲ赤府畿府ト云何レモ衛士三百人ヲ
 一團トスルナリソノ時天下十道ニ軍府六百餘アリ唐書
 兵志云凡天下十道置府六百三十四皆有名號

而開内二百六十有一皆以隸諸衛云々

唐府兵五等圖

上府 千二百人

中府 十人

下府 八百人

赤府 在赤縣為一

畿府 在畿縣為一

每一府ノ人数ノワリ十人ヨリ積リテ十人ヲ火ト云
火ニ火長一人アリ五十人ヲ一隊ト云隊ニ隊正一人

アリ三百人ヲ團ト云團ニ校尉一人アリ大凡一火ゴト
ニ六、駟馬ヲ備ヘ凡火具幕等ノ品々皆フナハルヲ介
冑等ノ武具ハ常々ニ庫ニオサメ征行アル時ニコレヲ
出シ給スツノ府ヨリ京ニ番上宿衛スルモノニハ夕、弓
矢横カヲ給スルノミ凡民年二十ニシテ兵ト成リ六
十ニテユサレソノ能ク騎射スルモノヲ越騎トシソノ餘
ヲ歩兵トス毎歳季冬ニ折衝都尉兵ノ府ニアルモノ
ヲ率テ軍陳進退ノ法ヲナラハス府兵ノ制大畧カ
クノコトニ

唐府兵統轄圖

折衝府

折衝都尉

左 右 果毅都尉

長史 兵曹 別將 校尉

一人 一人 一人 一人 六人

團

三百人 校尉一人

隊

五十人 正一人

火

十人 火長一人

杜氏通典司馬法ヲ引キ又「説ヲ舉ケテ云凡立軍一人曰獨二人曰比三人曰參比參曰伍五人為列列有頭目二烈為火十人有長立火子五火為隊

五十人有頭目二隊為官百人立長云々十人ヲ火ト云

トト是ニ本ノク火ハ後世夥字ト通用シテ何ニテモ人ノクミ

中カ間ノコトヲイフ

○凡府兵ハ皆諸衛ニ属ス左右衛ハ皆六十府ヲ領ス諸衛ハ府五十ヨリ四十ニテヲ領スフノ餘リハ東宮ノ六率府ニ隸サテ兵ヲ發ス時ハ符契ヲ下シテ州ノ刺史ノ官折衝都尉トギンミシテ兵ヲ出ス全府コトクク發スル時ハ折衝以下盡ク行ク全府ユカザルトキハ果毅都尉行ク又人数スナキトキハ別將バカリ行クサテフノ府ヨリ京へ上

リテ宿衛スル次第ハ兵部へ番上ニテ遠近ヲ以テ番ヲ給ス五
 百里ヲ五番トシ千里ヲ七番トシ千五百里ヲ八番トシ二
 千里ヲ十番トシ其外ヲ十二番トシテ皆以テ月上ス又直
 衛ノモノヲ簡留セラルモ五百里ヲ七番トシ其外段々次第
 アリテ亦以テ月上ススヘテ月上ト云ハ在京ニテ都ニ直衛ス
 ル一ヶ月ヲ云月番ノコトナリ 本朝前世武士ノ國々ヨリ定
 番ニ上ルコト何レモコノ制ヨリ衛士ト云コトモ唐ヨリノ名目ナリ
 ○高宗武后ノ時ヨリ天下久シク太平ニシテ府兵ノ法ヤウヤク
 壞レテ番役更代時ヲ以テセズ衛士カクニケ玄宗ノ世ニ成

リテイヨク減少セリ開元十一年ニ宰相張説カ計ニヨリ
 于京兆近邊ノ府兵並ニ白丁ヲアツメ潞州ノ長從兵
 ヲ加ヘテスベテ十二萬是ヲ長從宿衛ト號シテ一年一番
 リニ宿衛セシム明年ニイタリテフノ名ヲ改メテ彊騎ト云後
 ニナリテ十二萬ハヲ以テ六番ニ分チテ十二衛ニカ隸ス彊師
 古曰弓引滿曰彊又凡迅捷者曰彊ト正字通ニ見タリ
 天寶ヨリ後ニテノ制又變シテ六軍衛皆市人富者ニ
 シテ祿山カ亂ニ及テ皆甲ヲ受ルコトアタハサルニイタル
 ○フノ後方鎮ノ兵オコル方鎮ト云ハ本ハ邊將ノ夷狄ノ境ヲ屯

成スルモノナリ唐ノハシラニ兵ノ邊ヲ成ルモノヲ大ヲ軍トシ小ヲ守
捉ト云城ト云鎮ト云テスベテ是ヲ道ト云道ゴトニ大將一人
アリ大總官ト云又更ノテ大都督ト云高宗ノ永徽ヨリ後
ニ都督ノ帶使持節者ヲハシラテ是ヲ節度使ト云玄宗
以後安祿山史思明ノ亂ヨリテ武士ノ功アルモノ侯王
ニ封セラレ皆節度使ニ除セラレテ邊地ノニカギラス國々ニ多
クアリイツレモ數ヶ國ヲキリ取テ甚勢アリ通考ニ云方鎮
相望於內地大者連州十餘小者猶兼三四十長ナリ
是ヨリ節度使タルモノ代々相續シテ父死シテハ子ソノ兵ヲ

掌リ或ハ士卒ノ内ヨリ將吏ヲエラニ立テ號シテ留後ト云イ
ニシヘ周ノ時諸侯ノゴトクニシテ天子ノカモ制スルトアタハス
朱泚李希烈王承宗吳元濟ガトキ是ナリ其後天子
自ラ軍ヲ置テ禁軍トシ左右神策軍ト號ス宦者是ヲ
掌ル次第ニ亂ニオモムキテ唐ホロビ五代十國ノ世トナル是ニ
ヨリテ唐ノ兵制ニ變ストイヘリ
○唐書兵志ニ云唐有天下二百餘年而兵之大勢三變
其始盛時有府兵府兵後廢而為彊騎彊騎又廢
而方鎮之兵盛矣及其末也強臣悍將兵布天下

而天子亦自置兵於京師曰禁軍其後天子弱方鎮強而唐遂以止滅者措置之勢使然也

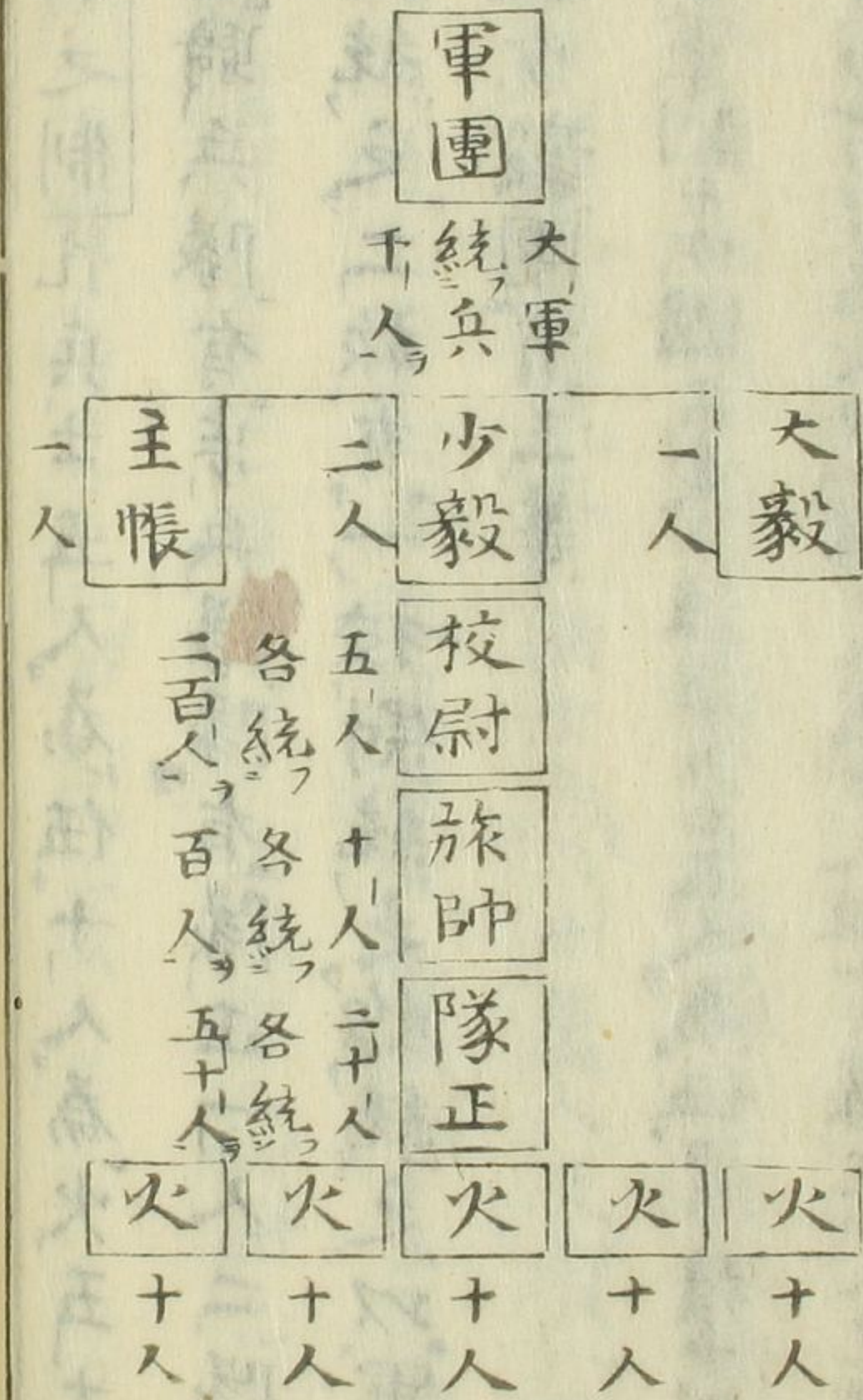
○右唐ノ兵制大畧カクノコトニ府兵ノ時府上中下オシナラシテ千人トツモルトキ其時天下ニ府六百三十餘アリカク天下軍兵ノ數六十三萬バカリナリ通典ニ云每歲十一月以衛士帳上于兵部以候徵發天下衛士向六十萬人天寶八年五月停折衝府十一年八月改諸衛士為武士ト云々憲宗ノ時元和國計簿ヲ作ル時天下ノ兵縣官仰給スルモノハト三萬餘人天寶ノ時ヨリハ三分ノ一ヲマヌ

本朝之制凡兵士五人為伍十人為火五十人為隊有騎兵隊有步兵隊隊有隊正一人二隊有一旅帥統之二旅有一校尉統之總統之以軍團有大毅少毅團有三等

○本朝ノ軍制モ中國古來ノ法ニテラヒ五人為伍ヨリ積アゲテ十ヲ一火トスワレヨリ五火ヲ一隊トス五十人組ナリ隊正一人コレヲ掌ルニ隊ヲ旅トス百人組ナリ旅帥一人是ヲ掌ルニ旅ヲ校トス二百人組ナリ校尉一人是ヲ掌ルコト上ヲ團トシテ團六團毅アリ人數ノ品ニテ上中下ノ三等アリ五百人以下ノ團ニタテ毅一人アリ六百人以上ニ大

毅少毅各一人アリ千人ニ滿ル時大毅一人少毅二人アリ是ハ唐ニ
 諸國ニ折衝府ヲ置キテ人数ニヨリテ上中下ノ三等アリ其頭ヲ果毅
 都尉トシテ模シタルモノナリ校尉旅帥隊正等ノ名ハイソモ直ニ唐名ヲ用テナリ

本朝軍團統轄圖



○軍防令云凡兵士各為隊伍義解ニ謂五十人為隊也
 五人為伍也ト又令ニ云凡兵士十人為一火トコノ外團
 旅ノツモリノコト皆令ニアラハル考フヘシ

○又云凡兵士各為隊伍便コト馬者為騎兵隊餘為
 步兵隊

○唐ノ府兵ノコト上ニ舉ル通リ天下所々ニ營ヲコレラヘ人数ヲ
 サシ置カル六百餘府アリ唐書通考等ニ詳ナリ 本朝ノ
 軍團ハ諸國ノ郡コトニ人数五百人ヨリ以上千人ニテノ備ヲ
 コレラヘテ常々ハ京ヘノボリテ皇城ヲ宿衛シ又ハ邊防ノ處

ニ行テ成トナル衛士防人トイフ是ナリサテ軍ゴトアルトキニ大將
 軍ニ後フテ國々ニサレ向フ令ニム凡兵士向京者名衛士守
 邊者名防人ト是ナリ

○軍團ノ設ハ諸郡ニ是ヲ置ク然レトモ郡ゴトニ是アルトモ見ヘス郡
 ニヨリテ或ハ置キ或ハ置カズ處々ノ要害土地ノ形勢ヨリテオカテ是ニ

○凡兵士ハ一人ゴトニ弓一張弦袋一口副弦二條征箭五十隻胡
 籙一具太刀一口乃子一枚等ヲ備フ火十人ゴトニ紺布幕一口等
 ヲ備フ五十人ゴトニ火鑕一具熟艾壹斤手鋸一具ヲ備フイヅ
 レモ自ラコレヲ辨スフ外品々道具ノコト令ニ詳ナリ馬ニ便ル

モノヲ騎兵隊トシ其餘ヲ歩兵隊トス上番ノ次第兵士京ニ
 向フコト一年防ニ向フコト二年事オハリテ郷ヘカエハ衛士ハ一年
 防人ハ三年ヲ國內ノ番ヲユス校尉以下イヅレモ同前ナリ

○サテ兵ヲ發スルコト二十人以上ハ開アル國ハ契ヲ用ヒ他國ハ勅符
 ヲ用ヒ引合セテ是ヲ發ス防人千人以上ヲ發スルハ内舍人ヲ遣ハシ
 テ發遣セム征討三千人ニ滿ル以上ハ兵馬發スル時分ニ侍從ヲ遣
 ハシテ勅ヲ宣テ慰勞ス別ニ武官ヲ置カルコト見ズ三千人ニ滿ルト
 キハ將軍副將軍軍監軍曹ノ官アリテ是ヲ統攝ス是ニ於テハ
 ノテ一軍ト云軍ニ三等ノ別アリ五千人以上一萬人以上十人

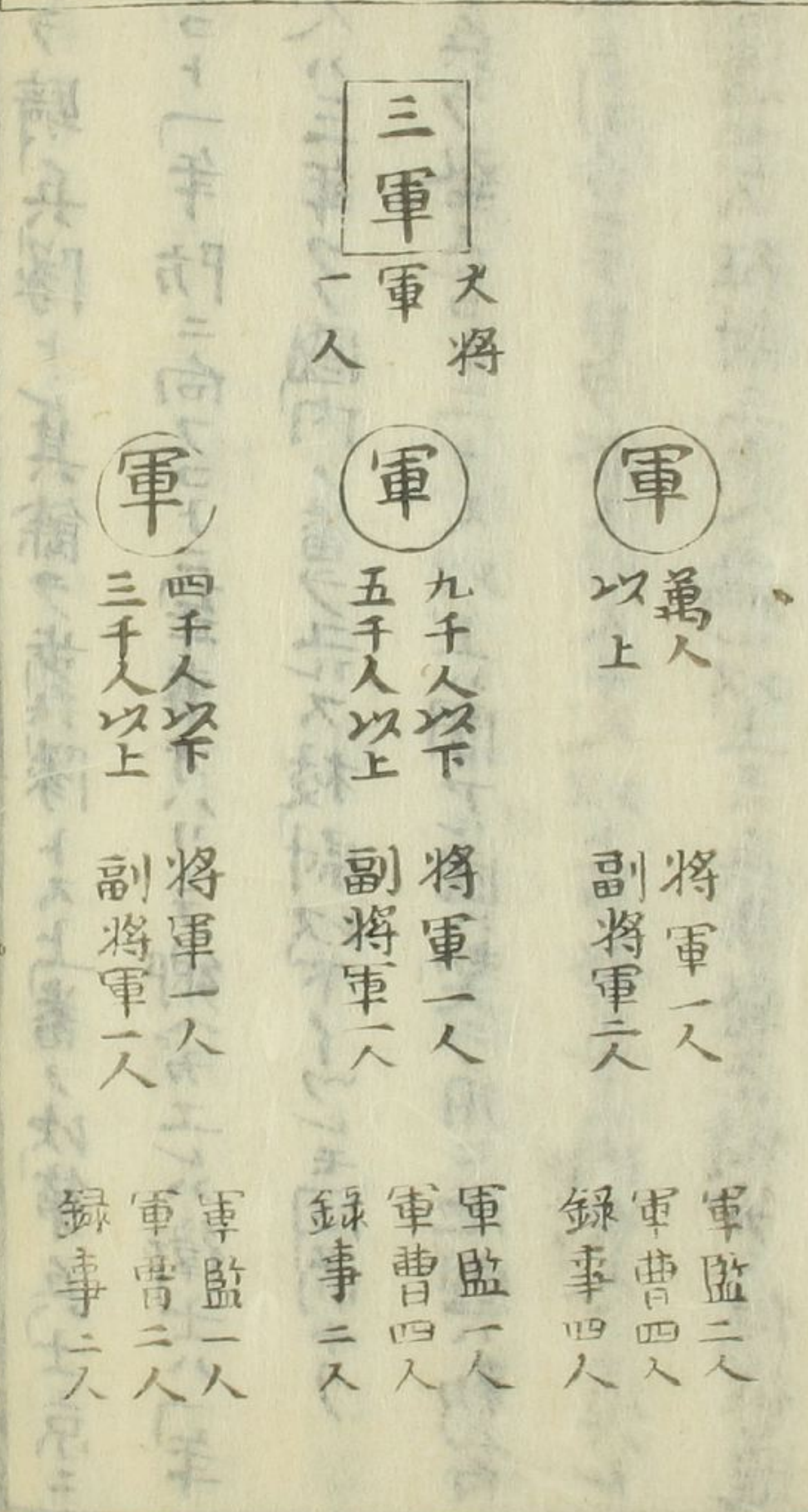
制度通

卷十二

五

多クニヨリテ武官ノ負數同カズカクノ如キ軍ヲニツアハセタルヲ
 三軍トシテ大將軍一人アリ圖ヲ下シテアラスイツモ臨時ノ官ニテ常
 ニ置カレトナシ軍陳ノ時分ニカクノゴトクニ立タルモノナリ

本朝行軍將官圖



○是モ他ノ官ノ四分配當ト同シキコトニテカミスケゼウサクワニ準
 ス故ニ軍曹錄事ハ佐官ナリ今義解ニ云軍曹者大主典
 也錄事者少主典也ト是ニテシルヘシ

本朝ノイニシヘ禮樂制度モハラ唐ノ制ヨリテ増損斟酌
 スルコト夫入コレヲシレリ今ニイタルニテ律令ニアラハトコ
 考ヘシルヘシシカレトモ賦稅ノ法唐ニ倣ヒテ租庸調ト分ツコト
 ハ明カニシリガタシ兵制ノ唐ノ府兵ニヨリテ損益スルコトハ
 トモシレガタシ通典六典等ニノスルコトワノ文甚繁多ニシ
 テハカニ會得シガタク且 本朝兵制ノ倂リタルモヨホト

年久シク上世ノ事ナルユヘニ律令ニアラハルトコロ明文アリ
 トイヘトモ考ヘ合セガタキナルヘシヨリテモワカニ唐ノ律令ノ文
 ニヨリ參伍考訂彼此引アハセテ説ヲナスコトカクノゴトニ好
 古ノ人ツレコレヲタマセ

○宋ノ兵制大槩ニ等アリ京師ヲ守リ征戍ニ備ルモノヲ禁
 軍ト云天子ノ衛兵ナリ諸州ノ鎮兵役使ニ分チ給スルモノヲ
 廂軍ト云戸籍ニ選テ團結訓練シ所々ニ防守スルハ則郷
 兵ト云又蕃兵アリ塞下内属ノ諸部落團結シテ藩
 籬ノ兵トスルナリ太祖ノ時ハ天下ノ兵ヤウヤクニ十萬アリ

テ十餘萬ハ京師ニ在リテ諸道ヲ制シ十餘萬ハ諸道ニ在リ
 テ京師ニ當リノ事通典ノ内宋儒議論ニ神宗ノ聖訓ヲ
 引テカクイヘリ宋ノ國初天下ノ兵數甚寡キコト是ニテ云
 ○仁宗ノ時宰相韓琦上書云々開寶之籍スヘテ三十七萬
 ハ千ニシテ禁軍十九萬三千トイヘリ是ヨリ太宗ノ仁宗ニ
 宗ヲヘテ英宗治平ノ初ハ兵百十六萬二千ニシテ禁軍馬
 歩六十六萬三千アリ祖宗ノ時ニテハ甚倍増セリ是言
 リテ神宗ノ時ニ冗兵ヲハブカル冗兵トハ無益ノ士卒ナリ
 ○神宗ノ時ニ國家ノ財用ヲ節スルコトヲ尋ラル王安石奏レ

テオモヘラフ兵ヲ減スルヨリ急ナルナリト是ニヨリテ保甲ノ法ヲ
行フ保甲トイフハ畿内ノ民十人ヲ一保トシテツノ内富ルモ
ノ一人ヲ長トス是ヲ保長トス五十家ヲ一大保トシテツノ内
ヲ大保長トスオホクニカシラ都保トシテツノ内ニテ衆民ノ服
スルモノヲ選ニテ都保正トス常々ニ武藝ヲ習ヒ盜賊ノ備ヲナ
サシム是ヲ保甲トス初ニ畿内ハカリニテ是ヲ行フ次第
ニ國々ヘオシテ後ニ天下ニ通行スコレヨリサキハ募兵ト云テ
武士ヲアツメテ備トスコノ時ニ是ヲ改メテ民兵ニセズイニハ
農兵ノ意ニテ常々ニ耕作ヲシテ事アルトキハ武士ニシツ

コトナリ哲宗位ニ即キテ太后臨朝ス知陳州司馬光上疏
シテ保甲ヲ罷シテ請フ遂ニ光ヲ用ヒテ明下侍島トシ政
ヲトラシメ保甲ノ法アラシメリテ冬三月ノ内ハカリニ武ヲ習
フ温公上書ノオモムキハイニシハハ百家ニ甲士三人歩卒七
十三人ヲイダレニ時農ヲツトシテ時武ヲ講スレカルニ保甲
ノ法ハ鄉村ノ人民ニ丁ノカニテ一人ヲ取り又五日ゴトニ武藝
ヲ習フ是ニヨリテ農業スルニ急リ比戸イエナシサハガシク畢竟利
益ナキコトナリト是ハ古法ニモカクノゴトキコトアリテ農兵モト
アシキコトニアラサレトモ後世ノ事久シクスタンタルユハ人々

ケズ且法ノ行ヒヤウヨロシカラザレヨリテ、コトト見ヘタリ、府兵強
騎ノコトハ各別ノコト、身合ノ兵ヲカリアツメテ兵トスルヨリハヨロシ
カレシ其後徽宗ノ時ニ諸路ノ保甲六十一萬餘人アリコトヨ
リ民兵モ又オトロハ南渡ノ後詳ニ舉ルニオヨバズ

○元ノ兵制又疎畧ナリ丘瓊山ノ云ニ起朔漠兵制簡畧
不可為法トツレヌ、明ノ世ハ元ノ後ヲ接トイヘトモ元ノ法ニヨラズ

○明ノ時國初丙在リテハ錦衣等上十二衛ヲ設ケテ宮禁
ヲ衛ル是ヲ親軍指揮使司ト云テ番上宿衛シテ属スル
コロナレヌ又留守等ノ四十八衛アリテ京城ヲ衛ル五軍都

督府ニ分属ス軍陳ノ時分ハ是ヲ調發スソノ後天下ニ都
指揮使司十六處行都司五所アリ内外衛スベテ若干
ノ置ル所ノ軍士イツレモ定數アリ

○明ノ兵制百戸千戸ト積ミ上ゲテ其上ヲ衛ト云ツ百戸
所ト云ハ人數百十二人アリソノ内ニ總旗二人小旗十人ア
リ何レモ小頭ナリコレヲ十アハセタルヲ千戸所ト云ハ人數千百
二十人アリコノ人數ハキハミリテアリ千戸所ヲ五ツ合セタルヲ
衛ト云ハ大率五千六百人アリ是ハ人數不同アリコレヲ組ニ
合セテ備ヘトス丘氏曰管領鈐束以成隊伍ト是ナリヲ外

ニ又王府ノ護衛アリ處々親王ノ國ニ公儀ヨリツケラレ守
護武士ノ備ヘナリ是明ノ兵制ノ大畧ナリ

○經國雄畧云文皇帝ト都北平云々原額伍籍通
計八十三萬有奇滇黔諸土司不在焉ト永樂ノ時
ノ軍額カクノゴトシ

○續文獻通考ニ云嘉靖八年桂萼上天下兵籍僅九十
七萬至胡松年考輿地又止八十四萬五千八百而已然
此又虛數也ト明ノ末武備オトロヘ軍士ノ數モスクナキ是
ニテルベシ衍義補ニ又當時一衛ノ人數ワツカニ半バニ及フモハ

リ又甚クシテハ十分ニテニ三モナシトイヘリ是又アセ考フヘシ

古今ノ兵制通シテコレヲ考フルニイニレハ封建ノ世ニテ兵
ヲ農ニ寓シ井田ノワリニテ兵車ヲイダス所謂千乘之賦
百乘之家トイフノ類是ナリ秦ノ法ヲヤブリ漢ニイタリ
テ秦ノ制ヲウケテ材官ノ法オコルソノ後北齊ノ比ヨリ府
兵ノ法ハシミリテ唐ニイタリテウノコトヲナハレリ唐ノ世兵制
ニ變シテ五季ノオトロヘニイタル宋ハ五代ノ弊ヲコリ兵ヲ
京師ニアツク石守信ガ兵權ヲ解キテヨリ天下ニ藩國ノ類
ナレ其後募兵民兵等ノ法ニチカニテ宋トヒエトナリ明

ニイタリテ百戸千戸衛ノ法オクル畢竟漢ノ材官唐ノ府
 兵明ノ衛所ヲ法カハリアリトイヘトモ何レモ國々ニ兵營ヲ
 立オキ士卒ヲアミタアツメテソレニ大將ヲ置テソノ下ニ偏將
 裨將等ヲソユルコトナリ秦已來諸侯ノ國廢シタル上ハ
 處々ニカクノゴトクツナヘラセザハカナハザルコト、見ヘタリ

制度通卷十三 畢

制度通卷十三



伊藤長胤 輯

▲五刑ノ事

古ハ聖王仁義禮樂ヲ以テ天下ヲ化動シタニヒテ天下太
 平ナリ然レトモアミタノ人ノ中ニ惡逆無道ノモノアリテ人
 ノ害ヲナス之ヲ除カザハ萬民ノ難義ヲ致スニ因リテ刑罰
 アリテ之ヲ輔ク故ニ堯ノ時皋陶ヲ命シテ士官トシテ之ニ
 告テタラシ汝作士明于五刑以弼五教期于予治刑期

于無刑民協于中ト此刑罰ノハジテ經ニ見ハルモノナリ
 五刑ノ名目舜典ニミエズ周書ノ呂刑ニ五刑不簡正于五
 罰ト云々墨劓剕宮大辟ヲアグ先儒コレヲ以テ舜典ヲ注
 ス墨トハ入墨ヲスラト劓トハ鼻ヲキルコト剕トハ足ヲキルコト又
 刑ト云宮トハ淫刑ナリ思子ハ勢ヲ断ツ女子ハ宮中ニ幽閉
 スルナリ大辟トハ死罪ナリ周禮ノ司刑ニ墨罪劓罪剕罪
 殺ト云リ同キコトナリサテ五刑各罰アリ罰ト云ハ罪アルモノ
 科代ニ財ヲ出スコトナリ之ヲ五罰ト云周禮ノ大司寇ニ又
 ム以五刑糾萬民ト野刑軍刑鄉刑官刑國刑ノ五ツヲ

アケ注ニ刑亦法也糾猶察與之トコノ五刑ハ肉刑ノ五刑ト思ナリ
 ○周禮ノ掌戮ニ云斬殺賊謀而搏之ト注ニ斬以鉞鉞若今
 要斬也殺以刀刃若今棄市也トイツモ今ノ斬罪ノコトナリ
 搏ハ又搏ニ作ル立音搏反磔也ト云々コレハ今ノハリツケノコトナリ
 又周禮ニ焚ト云コトアリ注ニ易ノ焚如死如ヲ引ク火アブ
 リノコトナリ又辜ト云コトアリ注ニ辜之言枯也謂磔之トコ
 レモハリツケノコトナリ又肆ト云コトアリ注ニ申也陳也トアリ論
 語ニモ肆諸市朝トアリ死骸ヲサラスコトナリイツレモ周禮
 ニ詳ナリ考フヘシコノ外輶裂衣烹等ノコト左傳漢書等ニ見

ハイツモ春秋以来戦國ニ及フテ一時ノ濫刑ニシテ名例ノ
定リタル法トハ三ヘズ

三代 墨
五刑 劓
刑 宮
圖 大辟

○秦ノ世ニ至リテ刑罰イヨク苛刺ナリ初メ諸侯タル時ヨリ文
公ノ世ニ三族ヲ誅スル法ハレテオコレリ孝公ノ世ニ商鞅ヲ用法

令キビシク始白王ノ天下ニイタリテ梟首車裂體解等刑
ヲ用ヒ又鬼薪城旦等ノ罰オコレリ鬼薪トハ罪アルモノヲ
科代ニ宗廟ノ薪ヲトラシムコトナリ城旦春トハアタニ起
テ城クレンヲ役ニスルコト婦人ハ米ツクコトヲ科代ニスルナ
漢ノ世ニテモコノ法ヲ承行フ

○漢ノ高祖ノ世ニ及ニテ秦ノ苛法ヲ除キテ約法ニ三章ニキ
タル曰殺ス者死傷人及盜抵罪トアリレカドモ族誅等ノ法
ツノミ、秦ノゴトクニシテサノ三刑名ノ品ヲ改メラルコト見ヘス
其後三章ノ法不足禦奸ニヨリテ蕭何ニ命シテ秦ノ法

ヲ拾ヒテ律九章ヲ作ラシ叔孫通是ヲ益シテ十八篇
ヲ作ル刑名ノ品是ニオイト定レリ

○文帝ノ時ニ齊大倉令淳于公ト云モノ罪ヲ犯シテ刑ニタ
ルツノ女子ニ緹縈ト云モノアリテ上書シテ父ノ死ニ代ラシコトヲ
願フ文帝是ヲ憐ニテ肉刑ヲ除カル律ヲ定メテ諸ノ髡スベ
キモノヲ宥シテ城旦舂トシ黥スベキモノヲ髡鉗シテ城旦舂
トシ劓スベキモノヲ笞二百右ノ趾ヲ斬ルベキモノヲ笞五百右ノ
趾ヲ斬ルベキモノ並ニ殺ス人自告ルモノナドヲ皆棄ホスソノカニ
外ニ輕刑ノ名アリテ實ハ死罪ニイタルユヘニ景帝ノ世ニイタ

リテ更ニ律ヲ改メ定メテ笞五百ヲ減シテ三百トシ三百ヲ二百
トス後又ニ二百ヲ二百トシ二百ヲ百ニ減シテ笞ノ令ヲ定長
サ五尺ニテ本口一寸末ノ薄サ五分カニシテツノ節ヲ削リ平
ゲテ笞ウツトキハ人ノ臀ヲウツ是ヨリサキハ人ノ背ニ笞ウ
ツナリ後世ニイタルニテ笞杖ノ刑ハコノ時ノ數ニヨリテ増損
セリ武帝ノ世ニイタリテ律令三百五十九章アリ其後西
漢ノ間刑名ノ増損サノミカハルコトナシ

○三國ノ時ニ及テハ馬融鄭玄等律ノ章句アリテ斷罪ノ
用ユベキモノニ萬六千二百七十二條ニ及ヘリ明帝ノ時ニ

陳群等ニ命シテ舊科ヲケヅリ約カニシテ魏ノ法制ヲ定メ律十、八篇ヲ作ル又古義ニヨリテ五刑ヲ制ス死刑髡刑完刑作刑贖刑トイフ

○北齊ノ昭成帝河清中ニ齊律ヲ作ル凡十二篇アリ大抵魏晉ノ故事ヲ採用ヒラル其刑名五アリ一曰死二曰流刑三曰刑罪即耐罪ナリ四曰鞭五曰杖ト又重罪十條ヲ定ムル後世二十惡ト云ハコレモトツク後周ノ律二十五篇其刑五等杖徒鞭流死ナリ死刑ニ又五等アリテ磔絞斬梟列不ト云コノ外世々贖刑ノ差アリテ科代ニ金ライシタス是ヲ罰

金ト云又贖銅トモ云何レモ前代ノ法ヲ損益シテ少ク異同アリ隋唐以來ノ法モ又コレヨリイデタシモノナリ
磔古ヘ磔ニ作ル本禮記ノ文王世子ノ篇ニ出ツ曰公族其有死罪則磔于甸人皇氏曰如懸樂器之磔也集說ニ懸縊殺之也トイヘリ絞モレノコトナリ磔トノ違ヒハツラザレバカリナリ同レ死罪ニ絞斬ヲハツコト北齊ノ世ヨリハレリテ隋唐以來明マデコレニヨル通典ニ斬刑殊身首其次絞刑死而不殊支體ヲ切ハナト全クストノ差ナリ磔刑ハ又カルキト見ヘタリ

○隋ノ時ニ文帝高煥等ラシテ新律ヲ定ムル十二卷五百條アリソノ刑名五アリ一ニ死刑ニ等絞斬ニ流刑三等千里ヨリ二千里ハ三年ニイタル三ニ徒刑五等一年ヨリ三年ニイタル四ニ杖刑五等十ヨリ五十ニイタル是ヲ笞杖徒流死ノ五刑ト云コノ時ニ前代ノ梟首轆裂ノ法ヲ除キ流徒ノ刑モ皆減シテ輕キニシタカフ又十惡ノ條ヲ置キ議請減贖當免ノ法アリ大抵北齊ノ法制ヲ採リ用ヒテ少少損益アリ煥帝ノ世ニイタリテ又刑ヲユクス律十八篇改メテ是ヲ大業律ト云然レトモ大業ノ末ニ及ビテ刑法又

嚴峻ニシテ天下大ニミタル

○後世五刑ノ名目コノ時ニサダマリ徒トイフ疏議ニ徒者奴也蓋奴辱之トイヘリ周禮ニ其奴男子入于罪隸任之以事實之圜土而教之量其罪之輕重有年數而捨ト是ナリ男ヲ女ノ罪アルモノヲソノ科代ニ一處ニシテ普請細工等ヲサセ罪ノ輕重ヨリテ年數アルコトナリ漢ノ時ニ城旦舂鬼薪白粲隸臣妾後漢ノ輸作左校等曹魏ノ作刑隋唐ノ居作配五代宋ノ配役刺配十ト名ハカレドモ何レ徒罪ノトナリコレヲ徒トイフコト五代晉ノ天福ノ比ヨリハヒリテ

入レ墨ヲシテ配スルヨリテ是ヲ刺配トイフ宋ヨリ以來モリア
リテ明ニ刺字ト云又漢ノ髡完而トイフモ髡髮ヲソリケツ
ルコトナレドモソノ後ニ又城旦等ノ刑ヲ加ヘ役ニ使フコトヲ徒
刑ノ類ナリ

○唐ノ高祖開スリテ苛政ヲ除キ約法十二條ヲ定ムラ
武德四年ニ律令ヲアラタ撰ムル五刑ノ自隋ノ制ヨリ

唐	
笞刑五	一十 贖銅 一十斤
三十 贖銅 三斤	四十 贖銅 四斤
六十 贖銅 六斤	七十 贖銅 七斤
杖刑五	六十 贖銅 六斤

五	
徒刑五	八十 贖銅 八斤
一年 贖銅 十斤	一年半 贖銅 十斤
二年 贖銅 十斤	二年半 贖銅 十五斤
三年 贖銅 十斤	三年 贖銅 十六斤
刑	
流刑三	二千里 贖銅 八十斤
三千里 贖銅 百斤	二千里五百里 贖銅
圖	
死刑二	絞 贖銅 一百斤
	斬 贖銅 一百斤

○唐ノ法立春ヨリ秋カマテノ内ハ死罪ヲ行ハズ是ハイニシヨリ
ノ法ニテ唐ニシテニアラズ又囚ヲ拷問スルコトハ三度ニ過キズ
毎訊相サルト二十日ナリ二十日ナリニ付、間ヲオキテ拷問スルコトナリ

○唐ノ時諸杖ノ制節目ヲ削リイツレモ三尺五寸ナリソノ内
 訊囚杖ハ大頭三分三厘小頭二分二厘常行杖ハ大頭二
 分七厘笞杖ハ大頭二分小頭一分半ヲ外扭枷等ノ制及
 本朝之制凡制五罪其一曰笞罪其二曰杖罪其三
 三曰徒罪其四曰流罪其五曰死罪死罪二等絞
 斬贖銅各有差

○名例律ニスル所刑名ノ次第カクゴトシ全ク唐ノ制ニヨリテ
 少々損益アリ是ヲ五刑トイハレテ五罪ト云又三流二死
 ノ贖銅ノレテ唐ノ法ヨリハヤ、オモシ各コレヲ下ニアラス

本	朝	五	罪	圖
笞罪五等	杖罪五等	徒罪五等	流罪三等	死罪二等
一十	六十	一年	近流	絞罪
贖銅一斤	贖銅六斤	贖銅十斤	贖銅百斤	贖銅二百斤
二十	七十	一年半	中流	斬罪
贖銅二斤	贖銅七斤	贖銅十五斤	贖銅二十斤	贖銅二百斤
三十	八十	二年	遠流	
贖銅三斤	贖銅八斤	贖銅二十斤	贖銅四十斤	
四十	九十	二年半		
贖銅四斤	贖銅九斤	贖銅三十斤		
五十	一百	三年		
贖銅五斤	贖銅十斤	贖銅四十斤		

右 本朝五罪ノ等カクゴトシトク唐ノ法ニヨリソノ内
 贖銅ノレナ流罪死罪ノニツハ唐ヨリヨホドオモシ具六本
 朝イニシヨリ國ニ金穀豐饒ナルヨリテナルヘシ苛_ハニシテ唐
 ヨリオモクセラルニアル_ハジキナリ又罪一等ヲ加減ストイフ答
 罪ナレハ十ヨリ五十マデ杖罪ナレハ六十ヨリ百ニテ各十ツ一
 等トス徒流死モ同シトナリ徒罪ハ年數ヲ以テ等ヲナス死
 罪ハ絞_ハ一等斬_ハ一等ナリイヅレモ上ニ攀ル通リナリ絞罪斬ヨ
 リ輕キワケハ絞罪ハ時ヲ待テコロシ死罪ハシカラズ時トイフ立
 春ヨリ秋分マデノ内ハ二年ノ内陽氣發生ノ時節ナルニ王

者天道ニリトリテ人ヲ刑ヲラルコトナレ故ニ 本朝獄
 令云自立春至秋分不得奏決死刑ト是ナリカレモ重
 キ罪科ハソノ時ヲ待タズレテ刑ス是死罪ナリ絞罪イヅニ
 テモソノ時ヲ待チ合セテ春夏ノ内ニハ刑セズソノ内モ恩詔
 アリテ赦ニ遇ハ徒流ニ配マ故ニ絞罪ヲカレトス牛リ法曹至
 要鈔ニ詳ナリ考フヘシ

○本朝笞杖ノ制イヅレモ節目ヲ削リサリテ長サ三尺五寸ニ
 ツクルソノ内訊囚杖並ニ常行杖ハ大頭徑四分小頭二分
 ナリ答杖ハ大頭三分小頭二分ナリ訊囚杖ハ罪人ヲ拷問

杖ナリ笞杖ハ笞ニ用ニ杖ナリ笞ト杖トニアラスヘテ笞
杖トハ笞ヲ打ツ拷問ノ時ニ背ト笞トハカケテ是ヲ打ツイシモ
今ニ詳カナリ

○五代ノ世刑名ノ事カハコトニハ梁ノ時ニ新ニ格式律令ヲ定メ
テ頒下ニテ施行フ周ノ顯徳四年侍御史張湜等ニ命メ
テ刑統二十一卷ヲ作シ刑名ノ事唐法ニ因テ沿革アリトシタリ
○宋ノ仁宗大理寺實儀刑統三十卷ヲ重定ス刑名亦前代
ニ因テ損益アリ仁宗ノ時ニ荆湖ニ人ヲ殺シテ鬼シニツルモ
ノアリ凌持シテ斬ル文獻通考ニコレヲ舉ケテ注ニ凌遲ニ

作馬氏曰凌遲者先斬其支體次斷其吭國朝之極
法也前代ニハコレヲ吊ト云唐ノ安祿山ノ亂ニ顏杲卿ヲ吊
スト云リ字彙ニ馬古尾切音寡說文別入肉而置其骨
也トシカレドモ定リタリ刑名ニテアラズ

○元ノ刑名大様唐宋ノ制ニ因リ英宗ノ時宰相儒臣ニ命メ
前代ノ書ニ因テ損益ヲ加ヘ大元通制ト云リノ書ノ大綱ニ
アリ一ニ詔制ニニ條格ニニ斷例大槩世祖已來ノ法制
事例ヲトリテ書シ成スリノ五刑ノ目凡七下ヨリ五十七ニ至
コレヲ笞刑ト云凡六十七ヨリ一百七ニ至コレヲ杖刑ト云徒ノ

法ノ年數ハ杖ノ數ニ因テ加減アリ流刑ハ南人ハ北地ニウツシ
 北人ハ南方ニウツス死刑ハ則斬アリテ絞ナシ惡逆ノ極モハ
 又凌遲ノ法アリイツレモ續通考ニ詳ナリ又丘瓊山曰自
 隋唐以來除去前代慘刻之刑死罪惟有絞斬二
 者至元ハ又加之以凌遲處死之法焉所謂凌遲
 處死即前代所謂鼎也前代雖於法外有用之者
 然不著于刑書著于刑書始於元焉

○元ノ時答刑七下ヨリ五十七ニ至ルト云コトハ初刑名ヲ定メ
 ラストキニ杖罪ステニ定リテ後曰天饒他ト下地饒他ト下

我饒他ト下ト云テ一罪ノ上ニテ三ツツ、云レタムフアリハ
 天ノ云レシハ地ノ云レシハ天子ノ云レト云コト、見ヘタリシカ
 ルニ因テ十打ツヘキモノヲ三ツヘラシテ七下トシ六十ウツ
 ヘキモノヲ三ツヘラシテ五十、セトスルナリ後アヤリテセノキ
 反テ十ヲ加フルコトアリコレヲ正サル是又續通考ニツブサナ
 リ凌遲ヲ刑書ニ著スハ不仁ナリトイヘトモ杖ヲ三下ト
 スハ元人ノ仁ナリ

○明ノ時國家ノ執法モ刑部都察院大理寺ナリコ
 シ三法司ト云都察院ハ前代ノ御史其臺ナリコノ三司ニテ

天下ノ刑罰ヲサバクノ外五刑並ニ十惡ハ議等ニシテ
イツレモ前代ニ因テ損益アリソノ内ニ徒刑流刑ニモ又杖
罪ヲ加フコト唐トコトナリ丘氏衍義補ニ云宋因唐制每
流各加以杖而又配役則是五刑之中兼用徒流杖
三者矣本朝流罪惟有杖而不配役比宋為輕矣

○又五刑ノ外ニ遷徙トイフコトアリテ郷土ヲ遷離スルコト
一千里ノ外ヲイフ大明律例ニ詳ナリ

杖刑五	九十	七十	八十
笞刑五	四十	五十	三十
明	六十	七十	八十

五	徒刑五	一年杖六十 一年半杖七十 二年杖八十 二年半杖九十 三年杖一百
刑	流刑三	二千里杖一百 二千五百里杖一百 三千里杖一百
圖	死刑二	絞全其肢體 斬身首異處

○續文獻通考ニ云死刑最重曰凌遲徙流之重曰遷
徙曰充軍ト云々又明ノ時贖ノ法唐トコトナリ在京在
外ニテ其差オナレカラス事レゲレハアゲソノ内無カ有力
稍有カト云テ人ノ身上貧富ノ差ニヨリテ輕重ノ別アリ
○又笞杖ノ法笞トイフハ小荆ヲ以テコレヲ作ル大頭徑二
分七厘小頭徑一分七厘杖トイフハ大荆杖ヲ以テ作ル

大頭徑三分二厘イツレモ節目ヲ削リサリ長サ三、尺
五寸ナリ又訊杖アリ是ハ栲問ス時ニ用ユ荆杖ヲ以テ
作り大頭徑四分五厘小頭徑三分五厘是モ長サ三
尺五寸ナリイツレモ囚人ノ臀腿ヲ打ツ笞杖トモ小頭ニ
テ打ツナリ

正	師	圖	然	全	其	胡	歸
五	三	二	三	十	里	林	一
五	三	二	三	十	里	林	一
五	三	二	三	十	里	林	一

▲十惡並ニ本朝ハ重ノ事

○周禮ニ五刑九伐ノ名アリテ不孝不睦造言亂民ノ刑
アリ内外亂鳥獸行則伐等ノ法サズぐニテ惡逆ヲ誅
シ不道ヲコロスハ古ヘヨリレカリソノチ漢ヨリコノカタソノ法
大畧相ヨレリ北齊ノ昭成帝河清年中ニ律ヲ定メコ
ノ時ニ重罪十條ヲ列セリ一ニ反逆二ニ大逆三ニ叛四ニ
降五ニ惡逆六ニ不道七ニ不敬八ニ不孝九ニ不義十ニ
亂ヲ十條ヲオカスモノハハ議論贖ノ限ニアラズコレヨリ以後
唐宋明ニイタルニテ必コレヲ律ノハシメニアラス北周ニ至リテ

十惡ノ目ヲ立テズニテ惡逆大不敬不道不孝不義内亂ノ罪ヲ重ス隋ノ文帝ノ時又十惡ノ條ヲ置ケリ齊ノ制トヤコトナリ唐全ク隋ニヨル故ニ丘瓊山云十惡之名非古也起於齊而著於隋唐因之ト

一曰謀反謂謀危社稷

二曰謀大逆謂謀毀宗廟山陵及宮闕

唐 三曰謀叛謂謀背國從偽

四曰惡逆謂毆及謀殺祖父母父母殺伯叔父母姑兄姊外祖父母夫夫之祖父母父母

母者

五曰不道謂殺一家非死罪三人及支解人

律 造畜蠱毒厭魅

六曰大不敬謂盜大祀神御之物乘輿服御

物盜及偽造御宝合和御藥誤不如本方

及封題誤若造御膳誤犯食禁御車舟船

不牢固指斥乘輿情理切害及對捍制使

而無人臣之禮

七曰不孝謂告言詛詈祖父母父母及祖父

惡

圖

母父母在別籍異財若供養有闕居父母
 喪身自嫁娶若作樂釋服從吉聞祖父母
 父母喪匿不舉哀詐稱祖父母父母死
 八曰不睦謂謀殺及賣總麻以上親毆告夫
 及大功以上尊長小功尊屬
 九曰不義謂殺本屬府主刺史縣令見受業
 師吏卒殺本部五品以上官長及聞夫喪
 不舉哀若作樂釋服從吉及改嫁
 十曰內亂謂姦小功以上親父祖妾及與和者

本朝之制置八唐之刑

本

朝

八

唐

圖

一曰謀反
 二曰謀大逆
 三曰謀叛
 四曰惡逆
 五曰不道
 六曰大不敬
 七曰不孝
 八曰不義

本朝ノ制全ク唐ノ法ニヨリ律ヲスル處ノ注、文少々、異同アリ、アハセ考フヘシクノ内、隋唐六十條ニ立テ、是ヲ十惡ニ云、本朝ニコレヲ損益シテ減シテハケ條トシ、是ヲ八虐ト云、先王ノ時、漢唐ノ法ヲ取り用ヒテ、時世ニレタガヒ、水、土ニヨリテ斟酌増損シタラノ意コレニヨリテミルベシクノ内、唐ノ律不睦ノ一條、本朝コレヲ除クツノ條目ハ不道ノ中ニアハセリ、又唐律内亂ノ條モノゾキテツノ條目ヲ畧シテ不孝ノ中ニコレヲイルノ異同オノツカラミルヘシ

本朝ノ制全ク唐ノ法ニヨリ律ヲスル處ノ注、文少々、異同アリ、アハセ考フヘシクノ内、隋唐六十條ニ立テ、是ヲ十惡ニ云、本朝ニコレヲ損益シテ減シテハケ條トシ、是ヲ八虐ト云、先王ノ時、漢唐ノ法ヲ取り用ヒテ、時世ニレタガヒ、水、土ニヨリテ斟酌増損シタラノ意コレニヨリテミルベシクノ内、唐ノ律不睦ノ一條、本朝コレヲ除クツノ條目ハ不道ノ中ニアハセリ、又唐律内亂ノ條モノゾキテツノ條目ヲ畧シテ不孝ノ中ニコレヲイルノ異同オノツカラミルヘシ

▲八議並ニ本朝六議ノ事

○八議ノコト本周禮ヨリ出ツ、是ヲ八辟ト云、或ハ天子ニ親ニアル人或ハ爵アルモノ或ハ賢才ナルモノ或ハ功アルモノ罪アル時ニハ常ノ人ナシハ定リタリ刑罰ニ逢フヘキヲセシメテ宥免セズ、コトナリ

○周禮小司寇以八辟、辨邦法、附刑罰、一曰議親之辟、二曰議故之辟、三曰議賢之辟、四曰議能之辟、五曰議功之辟、六曰議貴之辟、七曰議勤之辟、八曰議賓之辟、ト右八辟ノワケカクゴトシ、辟ト注ニ法ナリト解ス、ハケ條ノ法トスコトナリ、ツノ内、議賓トスコトハ注ニ云、謂所不臣者、三恪

二代之後典ト

唐律八議圖

- 一曰議親謂皇帝祖免以上親及太皇太后皇太后總麻以上親皇后小功以上親
- 二曰議故謂故舊
- 三曰議賢謂有大德行
- 四曰議能謂有大才業
- 五曰議功謂有大功勳
- 六曰議貴謂職事官三品以上散官二品以上
- 七曰議勤謂有大勤勞
- 八曰議宥謂承先代之後為國賓者

職事官散官トイフハ唐令ニ有執掌者為職事官無執掌者為散官ト云々又國賓トイフハ唐ノ時アリテ北周ノ子孫介公隋ノ子孫鄴公ヲ姬周ノ三恪ニ準シテ國賓トスナリ

本朝之制置六議

本朝六議

- 一曰議親謂皇親及皇帝五等以上親及太皇太后皇太后四等以上親皇后三等以上親
- 二曰議故謂故舊
- 三曰議賢謂有大德行
- 四曰議能謂有大才能

圖

五曰議功詔有大功勳
六曰議實謂三位以上

本朝ノ制全ク唐ノ制ヨリテフノ内ニ勤實ニケ條ヲケ
リテ是ヲ六議ト云議勳ノ一條ハ議功ノ條ト相通スルニ
是ヲ別ラセト見ヘタリ又議實ノ一條ハ本朝イニシヨリ一姓
ニシテ前代勝國ノ子孫ナキニ又是ヲ除カル予向ニ令ヲ讀
六議ノ事アリテフノ事ヲ詳ニモ本朝律並ニ法曹至要鈔ヲ
三ニ具サニフ目ヲアラハキリ先王周室唐家ノ法ヲ斟酌シ各
ノ精意ツカニ遺文ニヨリテフノ事ヲレタ貴フベキナラヌヤ

▲議請減贖官當除免ノ事

○律令ニ議請減贖官當除免ト云コトアリコノ事唐律ニ
詳ナリ律ノ第二卷名例ノ中ニ議ノ章請ノ命減ノ章贖ノ
章ト云段アリ議ト云ハ八議ノ人死罪ヲ犯ストキハ其罪狀
並ニ應議ノワケヲ條録シテ是ヲ奏聞シ都座ニテ集議
議定リタル上奏裁シテ上ノ御サバキヲ待ツ是ヲ議ト云律
ノ注ニ云議者原情議罪稱定刑之律而不正決之豈
ナリ請トハ太子ノ妃ノ大功以上ノ親又ハ八議ノ人ノ期以上
ノ親モシクハ五品以上死罪ヲ犯シタルモノハカクノゴトクニ決

断スベキコトヲ上請ス是ヲ請ト云注ニ云請謂條其所犯及
 應請之狀正其刑名別奏請ト是ナリコノニツトモニ流罪
 一等ヲ減スルカ又ハ十惡ヲ犯スモノハ議請ニオズ減ト云ハ請
 フコトヲ得ルモノ、親類流罪以下ハ各一等ヲ減スルノ例ニ從フ
 是ヲ減ト云贖ト云凡議請減スベキモノ、親類流罪以下ハ
 財ヲアゲテ罪ヲアガナフコトヲ聽ス是ヲ贖ト云コノニツハ上へ申
 上ルコトハナキト見ヘタリ是ヲアセテ議請減贖ト云唐律ニツ
 一ヒラカナリ文レゲレハ具サニアゲスコノ次ニ官當除免又免所
 居官ト云コトアリ

○官當ノコトハ杜氏通典ヲ考フニ陳ノ武帝ノ時ヨリ
 ハレニルト見ヘタリ通典ニ云五歲刑若有官准當二年
 餘並居作其三歲刑若有官准當二年餘一年贖
 十陳ノ下ニ是ヲアラハセリ此ハ無官ノモノ罪ヲ犯レテ五歲
 ノ刑ニ逢ハハ法ノ通りサダマリテ五年ノ役ヲツトムナリモ官位
 アルモノコノ刑ニ逢フコトアレハ官ヲ取アゲテ二年カノ代リトシ
 ノコリ三年ハ法ノゴトクニツトムナリ何レモ居作ニテ後世ノ徒
 罪ナリ隋ノ時ニ及ンテ是ヲ官當ト云通典隋ノ下ニ云犯法私
 罪以官當徒者五品以上官當徒二年九品以上官當

徒一年當流者三流同皆比徒三年云是ナリ官位アモ
ノ官ヲ解テ流罪徒罪代リニスルコトヲ當ト云是ニテミルベシ

○唐律ニ云諸犯私罪以官當徒者五品以上一官當
徒二年九品以上一官當徒一年若犯公罪者各
加一年當以官當流者三流同比徒四年其有二
官先以高者當次以勲官當行守者各以本品當
仍各解見任若有餘罪及更犯者聽以歷任之官
當其流內官而任流外職犯罪以流內官當及贖
徒一年者各解流外任唐ノ世官當ノ法カクムトシ私

罪トハ私ニ自ラ犯シ法ヲ枉ゲイヅル等ノ罪ライフハ罪トハ情ニ私
曲ナケレトモ法式ニ違フライフ又ハ公坐トモ云ニ官トハ職事官散
官衛官ヲ同ク「官トス勲官ヲ又「官トスナリ
○除名ハ畧シテ又除トモ云除拜除目ノ除トコトナリ全ク官位ヲ取
アゲテ庶人トスルコトナリ唐律ニ云除名者官爵悉除課役從
本色ト是ナリ

○免官又免トモ云律ノ注ニ云謂ニ官並免ト免所居官ハ律ノ
注ニ云謂免所居之一官トコノケ疏議ニクハシクコレヲアラセリ
ツノ内免所居官トイフ免官ト云ヨリカシ大抵官ヲ取アゲテノ

コリタル官ヲ帶タルモノナリ

右ノ内議請減贖ノコトハイニヒヨリ是アリトイヘトモ是ラ次
第シテ條目ヲ立ルコトハ隋ノ時ニジリテ唐コレニシタカフ文
獻通考ニ云隋有議請減贖當免之法唐因之トクノ
後年數ヲ經テ罪ヲ尋レテ官位ニ任スルコト又差アリ唐律ノ
文ヲ下ニ舉ク

○唐律云諸除名者官爵悉除課役從本色六載之
後聽叙依出身法○免官者三載之後降先品二
等叙免所居官及官當者期年之後降先品一等叙

本朝之制凡斷罪有議有請有減有贖其有官者
有官當有免官有免所居官有除名

コノ法全ク唐ノ制ニヨリ議トスハ六議ノコトナリ請トスハ上
へ奏請シテ天裁ヲウカフコトナリ減トスハ罪ヲ減スルコト
本朝名例律ニ云斬減者就斬死ト是ナリ贖トスハ議
請減スベキモノ親類流以下ノ罪ヲオカストキハソノ科代ニ銅
ヲイダスライフ刑部式ニ云絞斬ニ死贖銅各二百斤ト是ナ
リ又銅ナキトキハ錢ヲ取テ式ニ又云贖罪無銅准價徵錢ト
ト是ヲアハセテ議請減贖ト云今ノ内處ニニコノコトアリソノ委

細ノケ本朝律ニラスコト唐律ト同シ

○官當ノコト唐ト同シ官人徒罪ヲオカシタル人ハ其カハリニ官ヲ取アグコトナリ律文ヲ下ニテ本朝名例律云犯私罪以官當徒者一品以下三位以上一官當徒三年五位以上以一官當徒二年六位以下以一官當徒一年若犯罪者各加一年當其有二官謂官位為一官勳位為一官行守者各以考本位當仍各解見任若有餘罪及更犯者聽以歷任之官當

右ノケ唐ノ律文ト全クコトナラズ又除名免官等ノコト且モ唐トコトナラズ是又文レケハシサズ至要鈔ノ文手短カニキコユニヨリテ良シ左ニシル

○法曹至要鈔云犯重科之身有職位之時隨罪法之所指辭退其職位者也即其辭退之差有四

一者官當

注典名例律同

二者免所居官

先解退所居之一官

三者免官

先解退所居官位勳位

四者除名

官位勳位悉除課役從本色

○續日本後紀卷十六 承和十三年參議左大臣辨正躬王等

贖銅ノ下ニ仍准所犯以所帶一官當徒二年其餘如半
年徒贖銅如件ト云々官當除免ノコト是ニテアキラカキリソ
ノ上ニテ除名ノ人ハ官職位階勲トモ取アゲラシテ庶人トナル六
年ノ後ニ及テ官位ニ叙セラル免官ノモノハ三年ノ後先位ニ
等ヲ降シテ叙セラ免所居官並ニ官當ノモノハ二年ヌギテ先
位一等ヲ降シテ叙セラルソノ詳ナルコト又唐トオナレ

○五代宋朝刑名ノコト全ク唐律ヲ用ユ少ク沿革アルベケト
モ肇ルニ及ハズ明ニ至リテ官當ノ事見アタラズ

▲大赦常赦曲赦ノ事

○赦ノトイヒニヘヨコレアリ書經舜典ニ云生有凶火肆赦トコレ赦
ヨリテオユトコナリ青過也ト訓シテ人ノアヤミチナリ凶火害也
ト訓シテ人ノフシテハセニテ罪ニ入ルコトナリコトハ刑ニアフベキコ
トアハコラユニシテ宥免ス又周禮司刺ノ職ニ宥三赦ノ法
アリ三宥トハ一ニ不識ニ過失ニ遺忘ヲイフニ赦トハ一ニ幼
弱ニ老耄ニ三ニ愚昧ヲイフコト等ノ人ハ罪アリトイヘトモユル
ナタムナリ又周書呂刑ノ篇ニ五刑之疑有赦五罰之疑有
赦トイヘリ是ハ何トナレ刑罰ノサバキガタキコトヲ宥免シテカロ

ク行ルコトキリイツモ刑罰ノ定リタニテノ憐愍ナリ

三	不識
宥	過失
圖	遺忘

三	幼弱
赦	老耄
圖	愚思

○秦漢ヨリコトカタイハ三赦トイフコトハ罪ノ輕重情ノ淺深ニカニハズ
 一同ニ赦宥スルヲ云馬端臨オモラク管仲カ言ニ赦者小利而
 大害者也ト又楚人陶朱公カ長男ニ告テ曰王且赦トイフコト
 以テ三ハ春秋戰國ノ時カヨリステニ大赦ノ法アリトイヘリ然レド
 モ春秋ノ本ニ又モ又肆大宥トイフコトアリムカレヨリアルコト見ヘリ

○秦漢ヨリカタイハ三國家ノ大事即位改元立皇后立太子帝崩
 元服封禪郊祀等ノ時節並ニ日食地震火災靈祥之甘
 露降ル等ノ祥瑞災異又ハ征伐事オハル時ナド大赦行ルコト
 ナリ然レトモ定リタル例モ三ハズ又ハ何ノユヘトイフコトモ三ハズニテ赦ヲ
 ルコトモアリ

○北齊ノ時ニ大赦ノ日ハ武庫令金ニテ作りタル雞並ニ鼓ヲ聞闔
 門ノ右ニ設ケテ囚徒ヲ闕ノ前ニツク鼓ヲウツコト千聲枷鎖ヲ公
 シテコトヲユスオ男詩ニハ何日金雞下夜郎トイフコト事ナリ

○大赦ノ外ニ西赦トイフコトアリ是ハ天下ノ同ニ赦セラルニアラス州

一郡ノ内或ハ一方ヲ赦セラレナリツノ事三國ノ時分ヨリアレトキ名
 目ハ晉武帝泰始五年典赦交趾九真日南五嶺刑トイフ
 ヲリハシニ通考ニ見ル是ヨリ世々ニテ事アリテ唐宋ニイテリ
 テモソノ通りナリ通考ニ宋ノ制ヲ論シテ曰其恩霈之及有止
 於京城西京西路一州之地者則謂之曲赦ト是也
 ○スヘテ赦ニ三等アリ大赦常赦曲赦ナリ唐ノ時改元等詔
 書ノ文ニ強竊ニ盜私鑄錢外常赦不原者皆大赦ス
 アリシカハ大赦トイフ常赦ニヨリテ罪人ヲモユルサレト見ヘ名
 シカレドモ強竊ニ盜ナドノ大罪ハ大赦ニモユルサレ事ナリ又赦

文ハハヤク處々へ到著スルヤウニセラル故ニ赦書日行三百里
 トイヘリ恩惠ハヤクオヨブヤウニトノ事ナリ
 本朝之制凡赦有大赦有常赦有曲赦
 本朝大赦ノコト古ヘ見アタラズ 孝徳天皇大化二年
 新宮ヲ造ル因テ天下ニ大赦スルコト日本紀ニ見ル詔曰宜
 遣使者諸國流人及獄中囚一皆放捨ト大赦ノコト始
 コレニアラハルヨリ後赦ノコト處々ニ見ル
 ○文武天皇ノ大寶四年五月ニ西樓ノ上ニ慶雲アラハルコト
 因テスヲ改メテ慶雲元年ト云詔シテ天下ニ大赦同四年元

明天皇即位於太極殿トキ天下ニ大赦スルノ詔ニ曰自慶
 雲四年七月十七日昧爽以前大辟罪以下罪無輕重已
 發覺未發覺咸赦之ト云々コトヨリ後即位改元ノ詔書必
 フク文アリコノ外曲赦ノコト國史所クニアリ文ニゲレハアゲズ

○五代以來宋元明ニ至ルニテ赦ノコトカハルコトニヘズ又コレヲ德音
 ト云イツレモ通考ニ詳ナリ

赦ノコト古ヘ書經周禮等ニスルハ一人一人ノ上ニテ罪ノ疑
 ハレツアハレムヘキヲナダシユルテ一國天下ノ罪囚ヲ一同ニ
 スコトナシ秦漢コノカタ世々ニ赦令行ハレテ罪アルモノヲ一同ニ

ダシユルニ後世ニナリテモ故事トナリテアラタシ得ズレカレトモ管
 仲コノカタ後漢ノ吳漢王符蜀ノ孔明孟光宋ノ胡致堂
 馬端臨等イツレモ赦ノヨロコビニコトヲイヘリ是ハ大亂ノ後
 ナド寇賊アツオコリ逐一ニセシギシ法禁モナレガタキヤウ
 ナル時分ニハ一同ニ赦セラルコトモアルヘシ治平ノ世ニ罪人ヲ一
 同ニユルスコトハカヘツテ善人ノ害ヲナレ或ハアラカジノ赦ヲア
 テニシテ惡ヲチヌモノ出来テ國家ノ害ヲナスコトナリ吳
 漢カ光武ニスシテ勿赦ト云王符カ述赦篇ニ赦贖數
 則惡人昌而善人傷矣ト云大司農孟光カ費禕ヲ責

テ赦者偏枯之物ト云イツモコノワケナリソノ事通鑑
通考等ノ書ニ具サニアラハ偏枯之物トイフハ惡人
福ヲ得テ善人ナヤミ煩ニ因心ノカクイキナルコトヲイヘリ
トハハ中風ヲヤムモノ、氣血カナハガルガコト

▲私度越度冒度ノ事

○私越冒度トモニ何レモ開ヤブリノ事ナリ私度ト云ハ過所
ナレニワタシニ開所ヲ通ルヲイフ唐律疏議ニ云私度者
謂無過所後開門越度トハ開所ヲ通ラズシテワキ路へ
ヌケテ通ルヲイフ疏議ニ云越度者謂開不由門津不由
濟而度者ト唐律ノ注ニ云不由門為越ト同キコトナリ
冒度ト云ハ他人ノ名ヲカリテ其キツ手ヲオカシテ通ルヲイフ
疏議ニ云冒他人名請過所而度者ト是ナリ

○唐律云諸私度開者徒一年越度者加一等
門不由

越 ○若冒名請過所而度者各徒一年○即將馬越度冒度及私度者各減人二等餘畜又減二等
本朝之制凡度開禁私度越度冒度

○法曹至要鈔載衛禁律云私度開者徒一年註云謂三開者攝津長門減一等餘開及又減二等越度者各加一等○又云不應度開而給過所若冒名請過所而度者各徒一年

○本朝度開三等法全唐律ニヨル法曹至要鈔ニ冬私度越度ヲ出シテ冒度ヲ舉ゲズ律文ヲ按

スルニ冒度ノコトモコノキニ見ヘタリ且今ノヒト人ノレゾコナヒ
ヲ越度トイフハ律ノコトハヨリ轉ニアヤルナルヘシ

○明朝度開ノ法唐律ト大槩相同シ私度スルモノハ杖八十越度スルモノハ杖九十縁邊ノ塞開ヲ越度スルモノハ杖百徒三年冒度スルモノハ杖八十ノ餘大明律ニ詳ナリ
本書ヲ考フベシ

○保辜限ノ事
唐律並大明會典等ノ内處マニ
見ル是ハ人ヲアヤンタルモノヲアツカル日ギリノコトナリタト
ハ人ヲアヤンタルモノ即座ニ打コロストキハ殺入者死スル
ノ法モトヨリ疑ヒナシ或ハ即座ニ死セザレドモ十日廿日ヲ
過テ死スルハ手ヲ負ハセタルモノヲ死罪ニスフノ日數十日ヨ
リ十五日ニテ四段アリキズノ重キホド辜限久シキナリ
又日ギリノ内ニテモ他ノコトニテ死スルモノハ手ヲ負ハセタルハカ
ラニテ人ヲ殺スノ罪ニ處シガタキナリ是ニヨリテ保辜限

▲保辜限ノ事

○保辜限ノ事
唐律並大明會典等ノ内處マニ
見ル是ハ人ヲアヤンタルモノヲアツカル日ギリノコトナリタト
ハ人ヲアヤンタルモノ即座ニ打コロストキハ殺入者死スル
ノ法モトヨリ疑ヒナシ或ハ即座ニ死セザレドモ十日廿日ヲ
過テ死スルハ手ヲ負ハセタルモノヲ死罪ニスフノ日數十日ヨ
リ十五日ニテ四段アリキズノ重キホド辜限久シキナリ
又日ギリノ内ニテモ他ノコトニテ死スルモノハ手ヲ負ハセタルハカ
ラニテ人ヲ殺スノ罪ニ處シガタキナリ是ニヨリテ保辜限

法了保トイフ不請合フコトナリ唐律ノ文ヲ下ニス

○唐律鬪訟律曰諸保辜者手足毆傷者二十日以刃及湯火傷人者三十日折跌支體及破骨者五十日又曰限内死者各依殺人論其在限外及雖在限内以他故死者各依本毆傷法注云他故謂別增餘患而死者

本朝之制保辜限

本朝律鬪訟律ノ處ハ逸シテ存セズ故ニ考フヘキヨトシ然レトモ本朝律ハ全ク唐ノ制ヲ用ヒラル保辜限ノコトモ

亦唐ノ制ト同キナルベシ

○明律保辜限ノ事一タ唐上同シ別義ナシ故ニ之ヲノセズ

○春秋襄公七年鄭伯髡原如會未見諸侯丙戌卒于操公羊傳曰鄭伯髡原何以名傷而反未至乎舍而卒也何休註曰保辜諸侯卒名故於如會名之明如會時為大夫所傷以傷辜死也君親無將見辜者辜内當以弒君論之辜外當以傷君論之解曰漢律有其事然則知古者保辜者亦依漢律律文多依古事故知然也トシカレハ保辜ノコト古ヘヨリコ

アリテ漢ノ律ニ之ヲ用ヒテ唐明ニモ之ヲ遵用セラルト見
ヘテリコノ事他書ニ見ヘズ故ニ公羊ノ文ヲ詳ニス

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

▲才技長上ノ事

○才技長上ハ才能技藝アルモノ官職役義ヲ非番ナシ
ニトムルコトナリ長ト云ハトコシナヘト訓シテ常任ノコトナリ上
ト云ハ番ニアガルトナリ直ノ字ト同意ナリ故ニ番旧ヲ直日
上日ト云シカレハ長上ト云ハ非番ナシニ常ニトムルコトナリ
ハユルヒラツント云ガゴトシ

○通鑑晉安帝紀ニ云長上段速骨宋赤眉等因衆心
之憚征役遂作亂ト胡三省ノ注ニ云凡衛兵皆更番
迭上長上者不番代也唐官制懷化執戟長上歸

德執戟長上皆武散階九品長上之官尚矣又方
密之通雅云長上長直不番上也又云長上不獨
將士之名也宋ノ咸平中侍讀更直侍講長上ノ事
ヲヒラカシメ長上ノコトムカニヨリコアリテ唐ノ世亦コレヲ以テ稱
トスナリ

本朝之制有長上考有分番考

本朝ノムカシ百官考選ノ限スヘテ四科アリ内長上内分
番外長上外散位ノ四ツナリ内外トモ長上ハ二百四十日
ヲ一考トス内外分番百四十日ヲ一考トス考數ト上中

下ニヨリテ位階ヲスルナリ今ノ文ヲ下ニアケ

○選叙令曰凡初位以上長上官遷代皆以六考為
限義解云謂一品以下也又云凡考選限都有四
科内長上六考内分番八考外長上十考外散位
十二考云々又云内外長上同以二百四十日為考
内外分番同以一百四十日為考云々長上ハ分番
對シテ常詔ヲ長上ト云交代ヲ分番ト云各内外アリ考
數ニ因テ選ニテ位階ヲスルナリ事令ニ詳ナリコニ之ヲ略ス
延喜式式部下ニ長上考番上考ノコトアリ諸司畿内

番上考選文進省トアリ又云長上選番上選亦各有
人数ト長上ヲ番上ニ對シテイフトキハ長上ハ常詰ナリ番
上ハ即ヒノ分番ナリ

▲土功並ニ長功中功短功ノ事

○イニハ國ニ城郭ヲ修覆シ溝川ヲサスナドスル土功ヲオ
コスコト必十月ヨリ是ヲハシム是ハ春夏秋ノ三時ハ耕作ノ
隙ナキ時分ナルニヨリテ冬ニナリ農隙ニ是ヲハジムナリ春
秋左氏傳莊公二十九年ニ云凡土功龍見而畢務戒
事也ト今ノ九月龍星見ハテ土功ヲハジムナリト杜預注ニ
云三務始畢戒民以土功事ト又詩經鄘風ニ定之方中
作于楚宮ト夏正十月定ト云星ノ南ニ中スル時方ヨリ土
功ヲ始ムコトヲ賦セリニノ星ノアラハルヨリ宮室ヲ作ルニ因テ

營室星ト云二十八宿ノ室星ナリイツモ三代ノ法ニテ秦漢コノカタハ時節ニ拘ルコトニヘズ

○唐ノ時功作ルコト一年中ノ日ノ長短ニヨリテ是ヲ三段ニワカス唐書百官志云凡工匠四月至七月為長功二月三月八月九月為中功十月至正月為短功雇者日為絹三尺トアリ

唐功作三

長功 四月至七月

中功 二月三月八月九月

等圖

短功 十月至正月

本朝之制 凡計功程有長功中功短功

本朝功程ノ制亦唐ニヨリ四五六七月ノ四ヶ月日ナガキ時ハカシ長功ト云布一常ニテ四功ヲ得一常ト一丈三尺ナリシカレハ一人前ニ三尺二寸五分ナリ二三八九ノ四ヶ月ヲ中功ト云一常ニテ五功ヲ得一入前ニ三尺六寸ナリ十一十二正月ヲ短功ト云一常ニテ六功ヲ得一入前ニ三尺六分尺ノ一ナリツノコトハ營繕令ニアラハル

則經生亦不可不講求也。吾先子有
慨乎是四十五十之間以國字草一書
名曰制度通詳中兼古今之源委施及
本朝之古制次而至宋元明雖本通典
通考等然博覽群籍事有明據去旁通
考索體制簡當及便於誥博之典草既
成矣又讀書涉獵之次隨得隨改故其
傳寫者條款多少亦不復一樣及晚年

從學之士日多時新寫訂正事繁業忙
盖有不暇精校者矣傳播日夥誤訛乖
措不勝其多殆至有錯其義者傳寫編
海內誤落滿全書善韶自夙年欵校而
刊之天明丁未之歲始業遭戊申之災
荏苒數年不果癸丑之春再始業就原
稿一一照對又別有草者或片紙斷簡
屬其稿者搨比讎對補訂去就一從先

意體統繁然遂成全書甲寅之夏四月
校畢手自繕寫與同志謀以授剞劂今
茲刻成畧償素志凡四方考此書者就
此刻為定本其校訂之掛漏大方之是
正為幸矣

寬政八年丙辰冬十一月伊藤善齋謹撰



古義堂遺書目錄

發行

古義點四書白文 全五冊

古義點五經正文 全十一冊

仁齋先生著述

論語古義 十冊 孟子古義 七冊 中庸發揮 一冊

大學定本 一冊 童子問 三冊 語孟字義 二冊

古學先生文集 三冊 古學先生詩集 一冊

古學先生和歌集 一冊 易乾坤古義 一冊 春秋經傳通解 二冊

日扎極論 一冊 續近思錄鈔 一冊 文式 一冊

古學先生一行物行書

德必有隣

東涯先生著述

大學定本釋義 一冊

中庸發揮標釋 二冊

童子問標釋 一冊

周易經翼通解 十冊

制度通

十二冊

名物六帖 六冊

經史博論 四冊

辨疑錄

四冊

古學旨要 二冊

古今學變 三冊

經學文衡

三冊

刊謬正俗 一冊

釋親考

二冊

通書管見

一冊

唐官鈔

三冊

歷代官制沿革圖 鋪一冊

復性辨

一冊

新刊助字考

二冊

新刊用字格 四冊

秉燭譚

五冊

學文關鍵

一冊

鄒魯大旨 二冊

訓幼字義

八冊

紹述先生文集 二十冊

紹述先生詩集

十冊

勢遊志

一冊

論語古義標註 二冊

孟字古義標註 一冊

語孟字義標註 二冊

四書集註標釋 六冊

周易傳義考異 九冊

讀易圖例 一冊

讀易私說 一冊

周易義例卦爻考 一冊

春秋胡傳辨疑 二冊

文集附錄 一冊

三奇一覽

一冊

名物六帖

七冊

間居筆錄 三冊

己丑筆記 庚寅日錄

一冊

東涯漫筆

二冊

大極管見 一冊

聖語述

一冊

經史論苑

一冊

天命或問 一冊

帝王譜畧

四冊

本朝官制沿革圖考 六冊

後漢官制	一冊	三韓紀畧	二冊	朝鮮官職考	一冊
倭漢紀元錄	一冊	盍簪錄	四冊	盍簪餘錄	二冊
輜軒小錄	一冊				
先游傳	一冊	詩經要領	一冊	佔俾漫鈔	一冊
集語鈔	一冊	古官	一冊	宮殿門考	一冊
宮室名號	一冊	閱史隨鈔	一冊	國事雜語	一冊
考古襍編	一冊	倭漢通信雜誌	一冊	朝鮮雜誌	一冊
鷄林軍記	五冊	朝鮮國諺文字母	二冊	文體辨畧	一冊
雜雋手錄	一冊	肆言類雋	一冊	東牘套語	一冊

尤氏熟語	一冊	須記詩選	一冊	明詩絕奇	一冊
東涯詩話	一冊	東涯談叢	一冊	姓林全書	二冊
五音五位訣十例	一冊	避諱書	一冊	異名考	一冊
朝野通載	三冊	同續集	三冊	同新集	一冊
當世詩林	一冊	同續編	一冊	同遺編	一冊
時英文雋	三冊	同續編	二冊		
東所先生著述					
古義抄翼	七冊	中庸堯揮抄翼	一冊	詩解	十八冊
詩解名物	一冊	操觚字訣	十五冊	古學十論	一冊

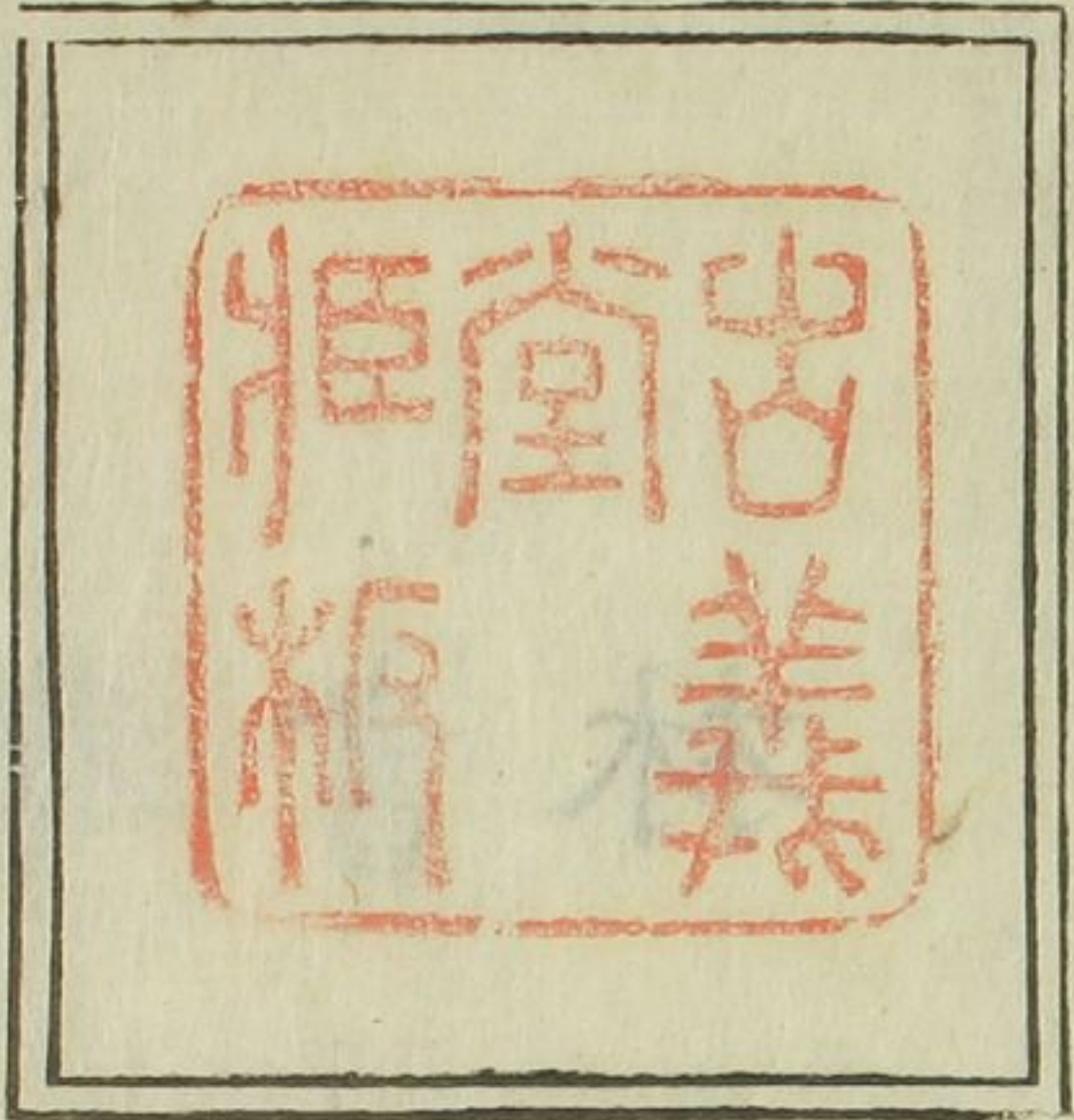
古義堂目錄

三

本實雜論	一冊	譯林	五冊	譯原	三冊
助字考小解	二冊	四聲彙辨	五冊	集帖姓名	二冊
脩成先生文集	十冊	脩成先生詩集	五冊		

平安書肆

林權兵衛
林芳兵衛



每部有圖章記號
無是者皆屬贗本

寬政丁巳春全刻

施政堂藏版

京都書林

林芳兵衛

石田忠兵衛

